

大野城市外国籍市民意識調査

報 告 書

平成24年9月

大 野 城 市

目 次

第 1 章 調査概要	P 1
第 2 章 調査結果	
第 1 節 回答者の属性	P 2
第 2 節 言語	P 7
第 3 節 地域参画	P 12
第 4 節 日本での生活	P 15
第 5 節 医療・福祉	P 17
第 6 節 災害・緊急時など	P 19
第 7 節 子育て	P 22
第 8 節 大野城市役所のサポート	P 25
第 3 章 今後の課題	P 33

第1章 調査概要

1 調査目的

多文化共生のまちづくりを推進していくために、外国籍市民の市政に対する意見や生活上の課題、ニーズ等を統計的に把握し、今後の市政運営に役立てるための基礎資料とする。

2 調査方法

- | | |
|----------|--|
| (1) 調査対象 | 平成24年4月18日現在、市内に在住している満16歳以上の在留資格が特別永住者を除く外国籍市民 |
| (2) 調査方法 | 郵送による調査票の配布・回収 |
| (3) 調査期間 | 平成24年4月25日(水)～平成24年5月31日(木) |
| (4) 調査票 | 英語 [*] 、中国語、韓国語のいずれか調査票と日本語の調査票
※上記3言語を公用語としない対象者には英語の調査票を配布 |
| (5) 設問数 | 38問 |

3 回収結果

- | | |
|-----------|---|
| (1) 標本数 | 428人 |
| (2) 実対象者数 | 397人 [*]
※標本数から調査書未着(宛先不明で戻ってきたもの)を除いた数 |
| (3) 回収数 | 118件 |
| (4) 回収率 | 29.7% |

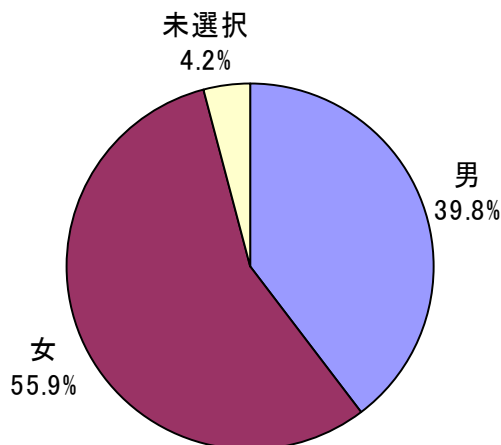
4 結果の表示方法

- (1) 百分比は回答対象者数を100.0%として算出し、構成比(%)は、小数点第2位を繰り上げもしくは切り捨てして示しているため、その合計が必ずしも100.0%にはならない場合がある。また、個々の比率を合計した場合の数値と個々の実数を合計した場合の比率の数値が一致しないことがある。
- (2) 設問・選択肢などの表現は、意味が変わらない程度に一部簡略化している場合がある。

第2章 調査結果

第1節 回答者の属性

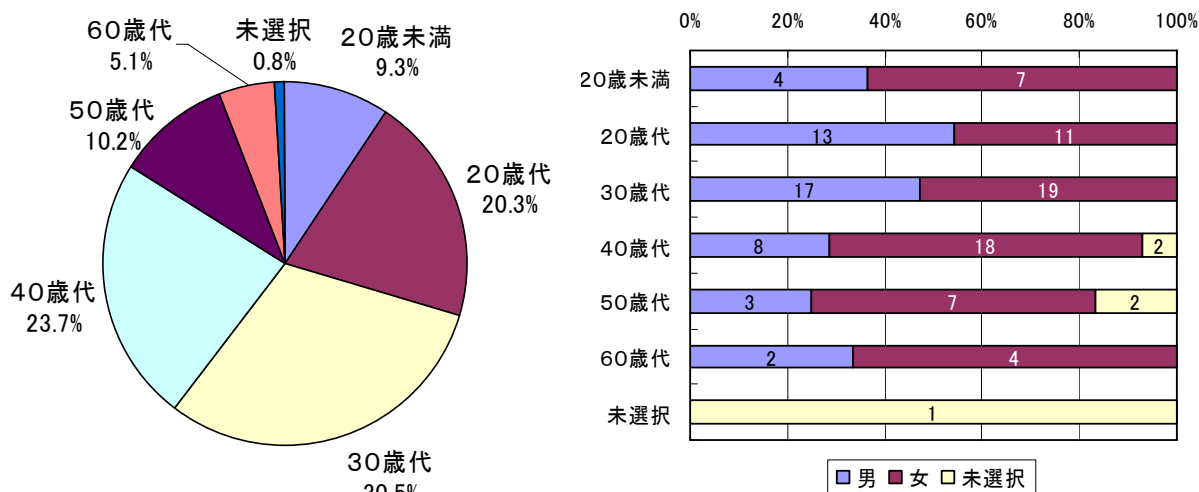
問1 あなたの性別を教えてください。



【性別】

「女性」が55.9%（66人）で、「男性」の39.8%（45人）より16.1ポイント上回っている。
 ※参考 市内居住の特別永住者を除く在住外国人（実対象者397人）の男女比は、「女性」が54.7%（217人）、「男性」が45.3%（180人）

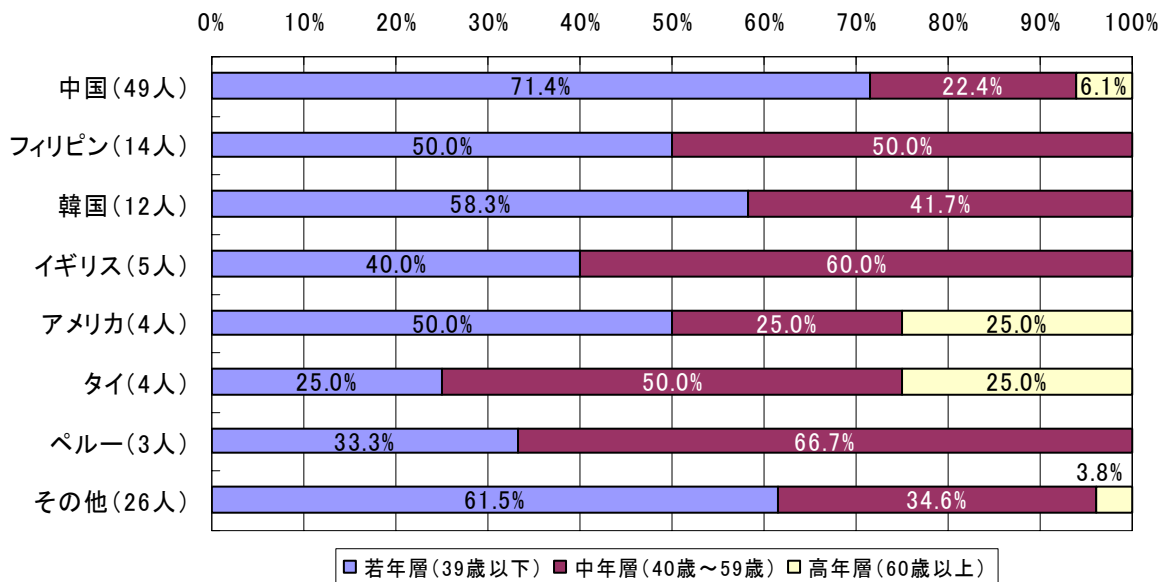
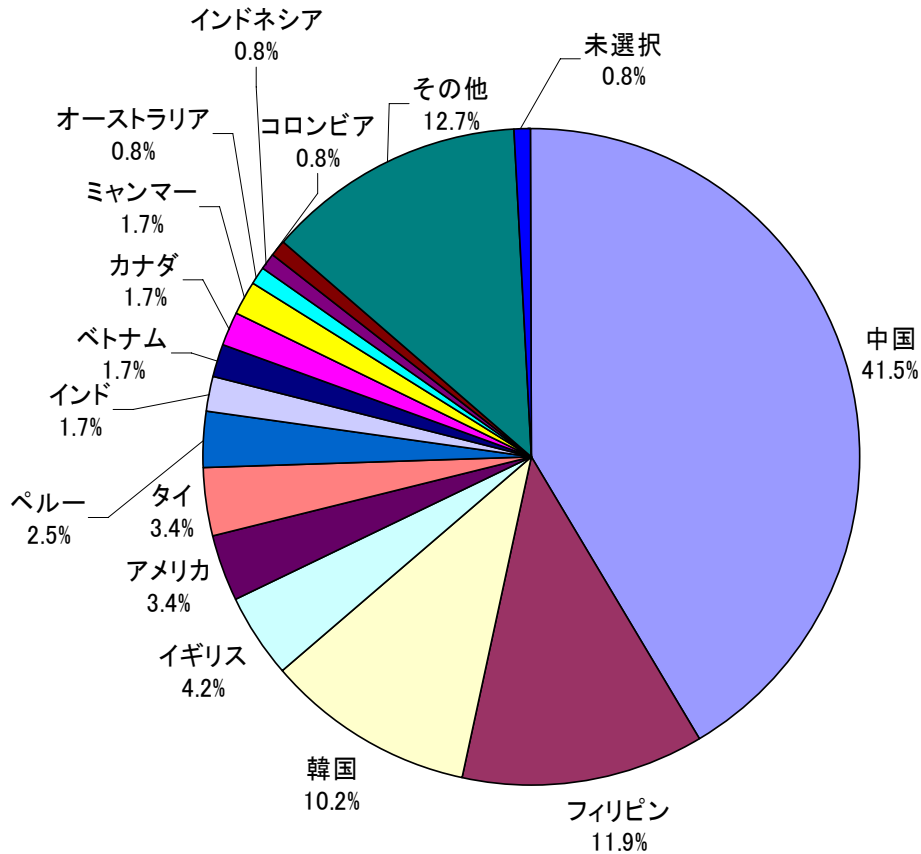
問2 あなたの年齢を教えてください。



【年齢】

30歳代、40歳代、20歳代の順で回答が多く、16～39歳まで回答者が全体の60.1%となっている。
 ※参考 市内居住の特別永住者を除く在住外国人（実対象者397人）の年齢比は、「20歳未満」が2.3%（9人）、「20歳代」が33.8%（134人）、「30歳代」が38.0%（151人）、「40歳代」が14.9%（59人）、「50歳代」が7.8%（31人）、「60歳代」が2.8%（11人）、「70歳以上」が0.5%（2人）で、16～39歳は全体の74.1%（294人）

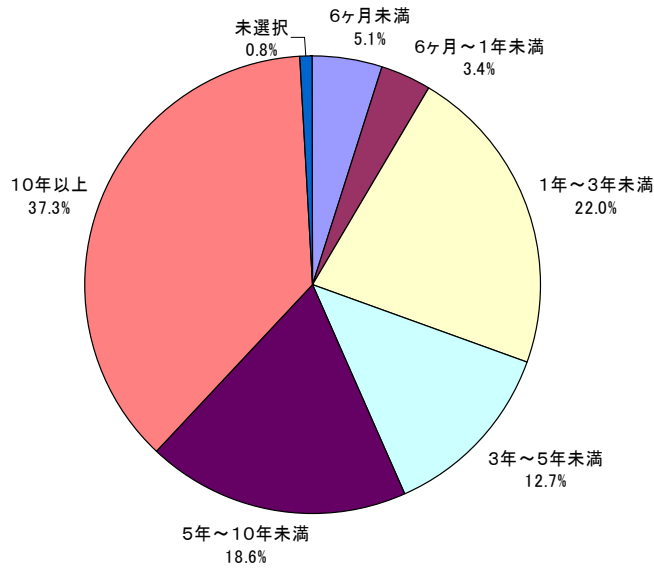
問3 あなたの国籍を教えてください。



【国籍】

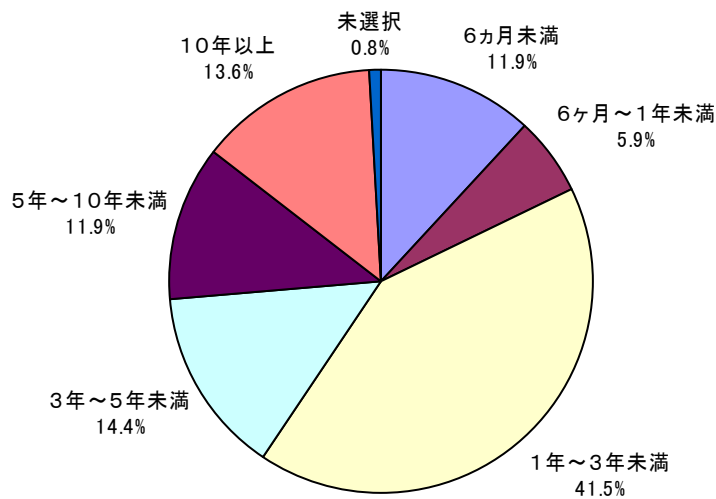
「中国」が41.5%、「フィリピン」が11.9%、「韓国」が10.2%となっており、アジア地域が全体の73.7%を占めている。また、「中国」「フィリピン」「韓国」「アメリカ」「その他」においては、半数以上が若年層（39歳以下）となっている。

問4 日本にどのくらい住んでいますか？（何回も来日された方は合計で）



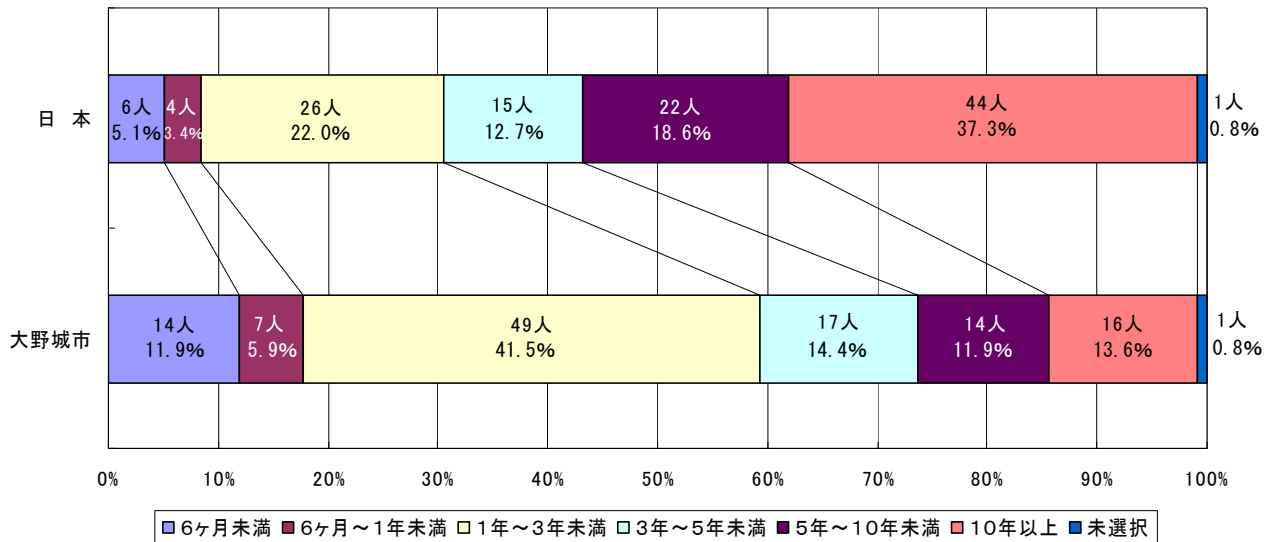
【日本の居住年数】
 日本での居住年数「6ヶ月未満」が5.1%、「6ヶ月～1年未満」が3.4%、「1年～3年未満」が22.0%、「3年～5年未満」が12.7%、「5年～10年未満」が18.6%、「10年以上」が37.3%となっている。また、来日して10年未満の人は、全体の61.8%を占めている。

問5 大野城市にどのくらい住んでいますか？（何回も大野城市に住まれた方は合計で）



【大野城市の居住年数】
 大野城市での居住年数「6ヶ月未満」が11.9%、「6ヶ月～1年未満」が5.9%、「1年～3年未満」が41.5%、「3年～5年未満」が14.4%、「5年～10年未満」が11.9%、「10年以上」が13.6%となっている。また、大野城市の居住年数が10年未満の人は、全体の85.6%となっている。

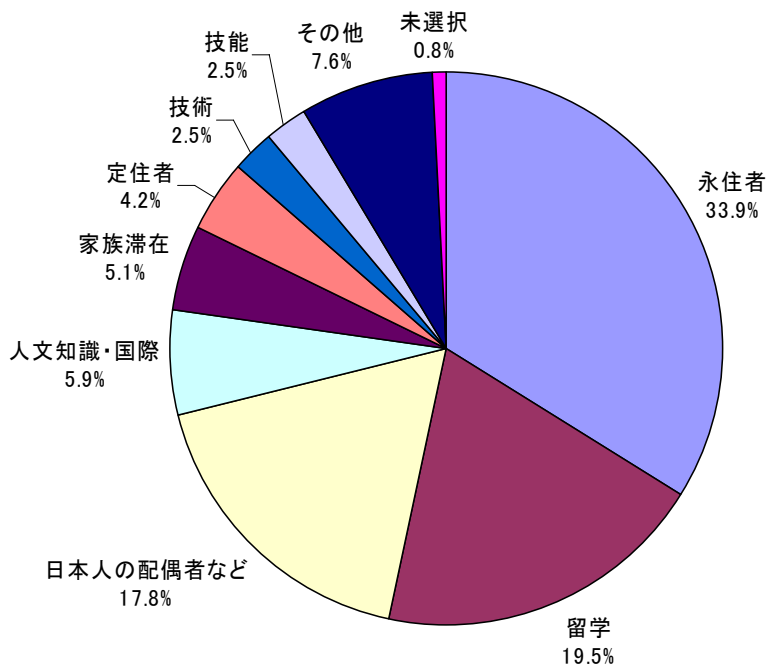
【日本と大野城市の居住年数の比較】



【日本と大野城市の居住年数の比較】

日本に「5年以上」居住している人は55.9%、「5年未満」の人は43.2%となっているのに対し、大野城市に「5年以上」居住している人は25.5%、「5年未満」の人は73.7%となっている。

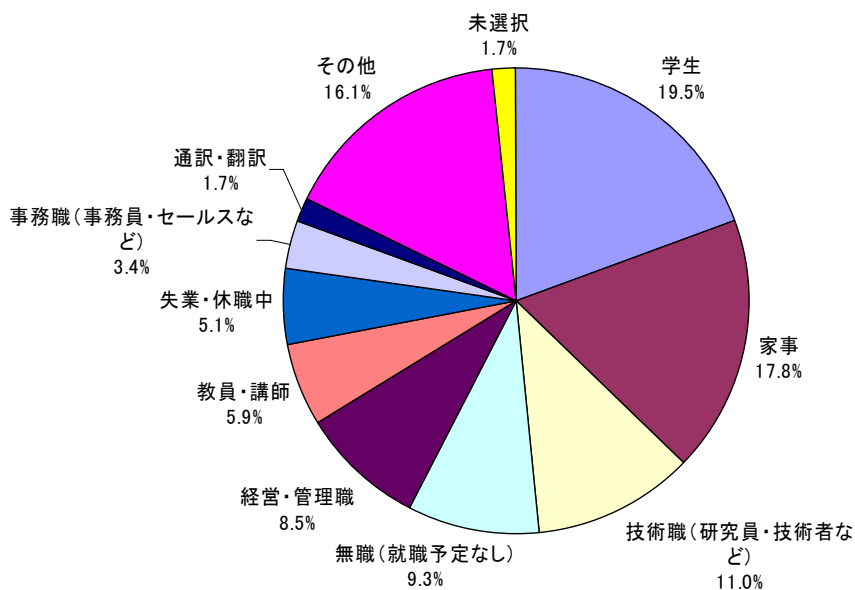
問6 あなたの在留資格 (VISA) を教えてください。



【在留資格】

「留学」が19.5%、「永住者」・「日本人の配偶者」・「定住者」など長期的な在留の可能性があるものが55.9%となっている。

問7 あなたの仕事の種類は何ですか？

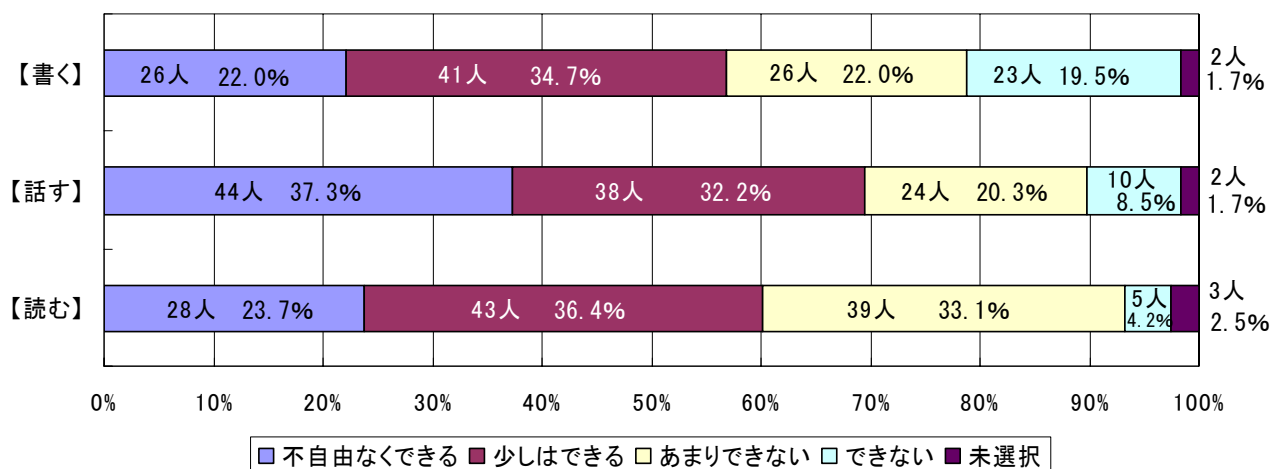


【職業】

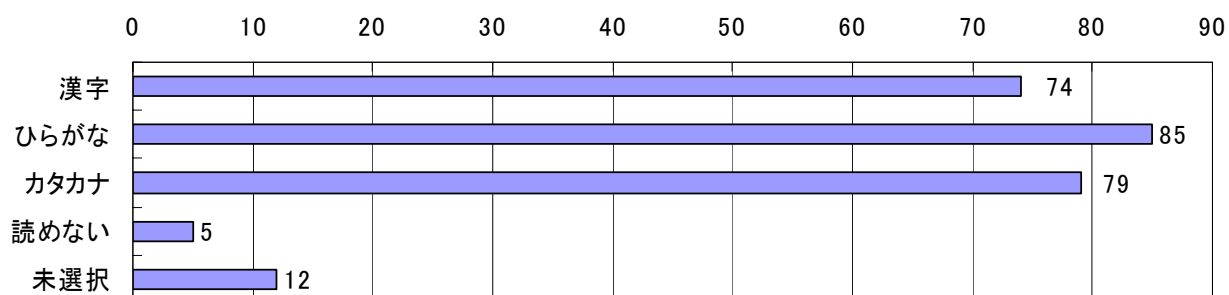
「学生」が最も多く19.5%、次いで「家事」が17.8%、「技術職(研究員・技術者など)」が11.0%、「無職(就職予定なし)」が9.3%、「経営・管理職」が8.5%、「教員・講師」が5.9%、「失業・休職中」が5.1%、「事務職(事務員・セールスなど)」が3.4%、「通訳・翻訳」が1.7%の順となっている。

第2節 言語

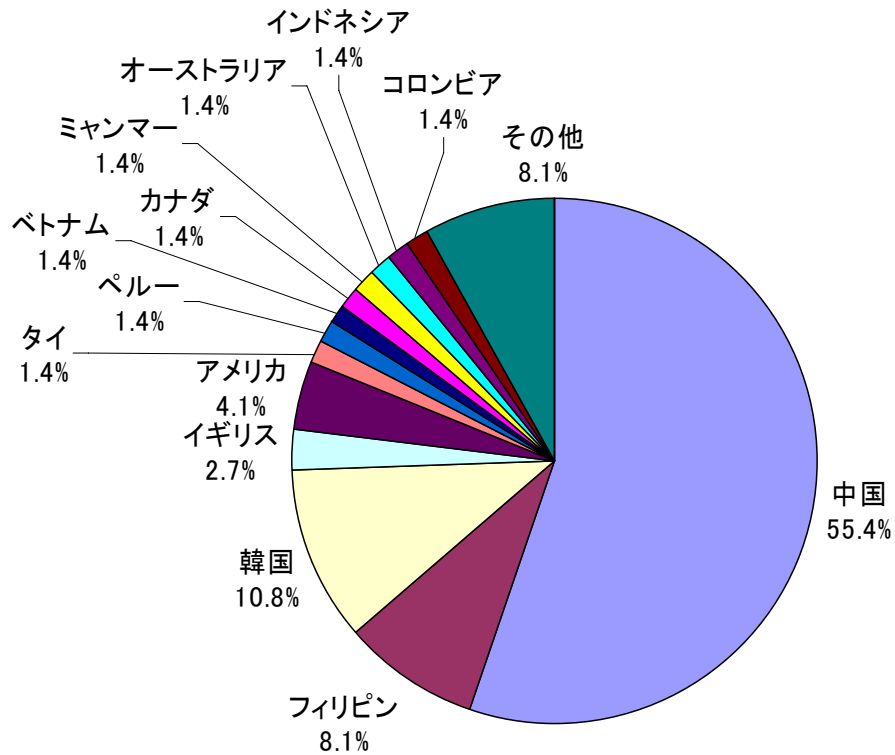
問8 あなたの日本語能力について



【読める文字】



【漢字が読める人】

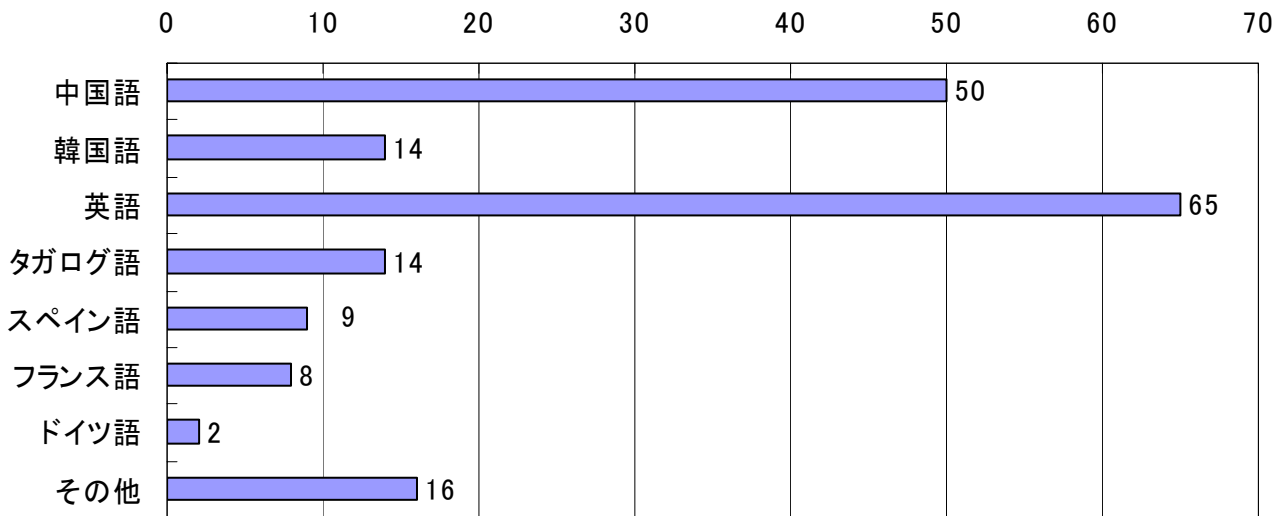


【日本語能力】

「話す」⇒「読む」⇒「書く」の順に「不自由なくできる」「少しはできる」人の割合が多く、日本語の読み書きが「あまりできない」または「できない」は、全体の約 40%となっている。また、ひらがなを読める人は 85 人 (72.0%)、カタカナを読める人は 79 人 (66.9%)、漢字を読める人は 74 人 (62.7%) となっている。ただし、漢字を読めると答えた 74 人のうち、41 人が中国国籍となっており、全体 (118 人) のうち、中国国籍 49 人を除く 69 人の中で、漢字が読める人は 33 人 (47.8%) となっている。

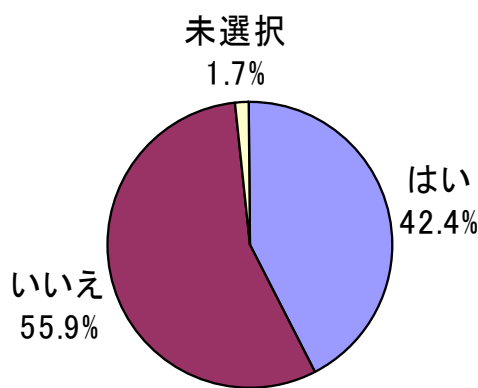
問9 日本語以外で日常会話ができる言葉は何ですか？（複数回答可）

【回答者 117 人、未回答者 1 人】



【日常会話ができる言語】
 日本語以外で日常会話ができる言語として、「英語」ができる人は 65 人 (55.1%)、「中国語」ができる人は 50 人 (42.4%)、「韓国語」と「タガログ語」ができる人は、それぞれ 14 人 (11.9%) となっており、「英語」「中国語」「韓国語」の三言語が在住外国人支援において必要となることが分かる。なお、「タガログ語」を話すことができる人はフィリピン国籍の人が多くことから、英語も話すことができると推測される。

問10 今、日本語を学んでいますか？

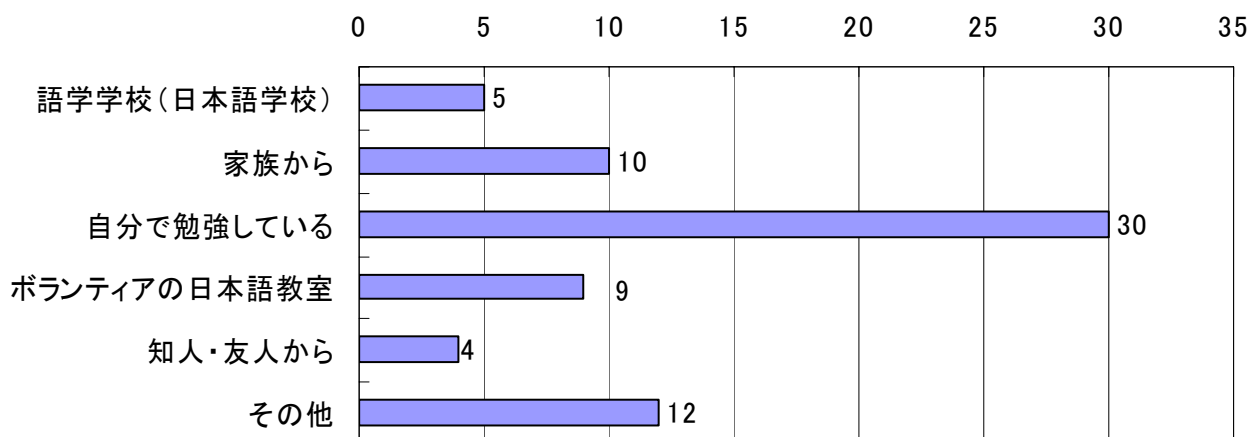


【日本語学習】
 現在、日本語を学んでいる人が 42.4%、学んでいない人が 55.9%となっている。

※問10で「はい」と答えた方（50人）

問10-1 どこで日本語を学んでいますか？（複数回答可）

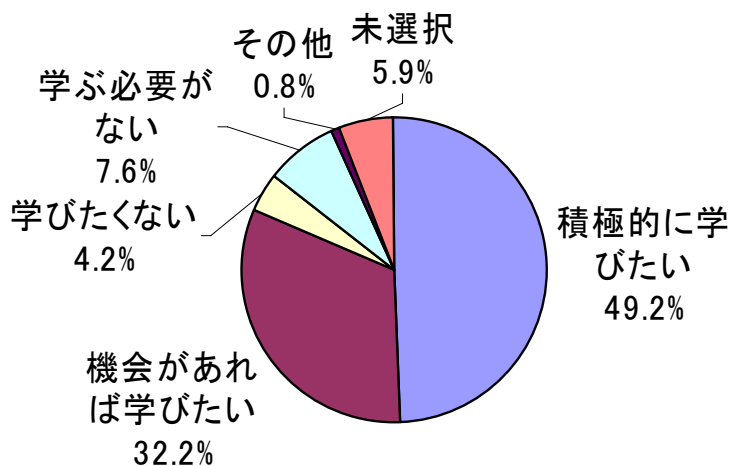
【回答者50人、未回答者0人】



【学習方法】

日本語を学習している50人のうち、「自分で勉強している」が30人で、日本語学習者全体の60.0%となっている。また、「語学学校（日本語学校）」で学習している人は5人で、日本語学習者全体の10.0%となっている。

問11 今後（も）日本語を学びたいと思いますか？



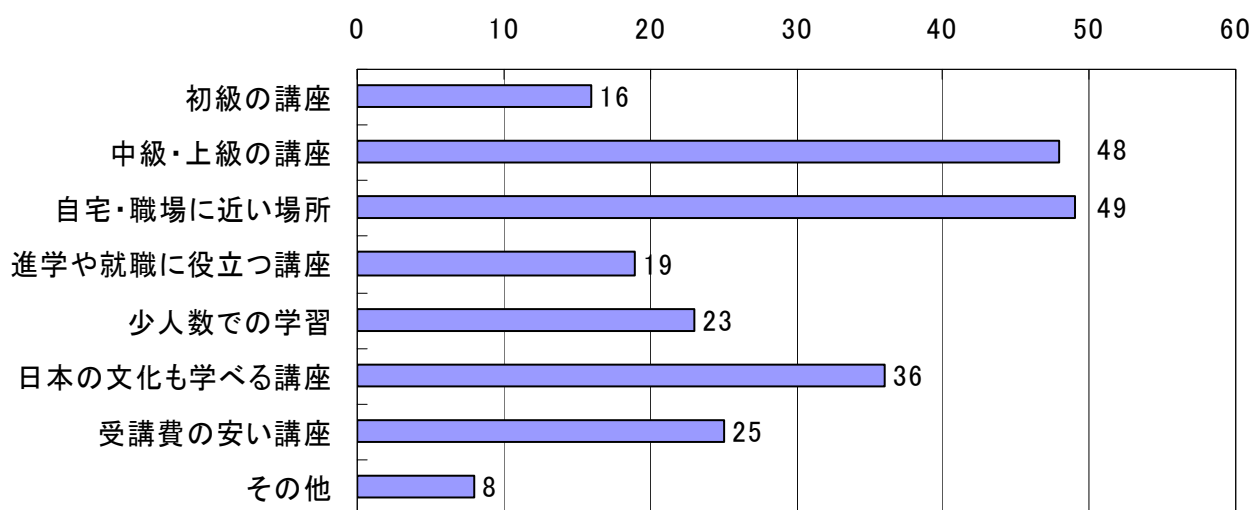
【学習意欲】

「積極的に学びたい」が49.2%、「機会があれば学びたい」が32.2%となっており、全体の81.4%が日本語を学ぶ意欲を示している。

※問11で「学びたい」と答えた方(96人)

問11-1 日本語学習の際に希望することは何ですか？(複数回答可)

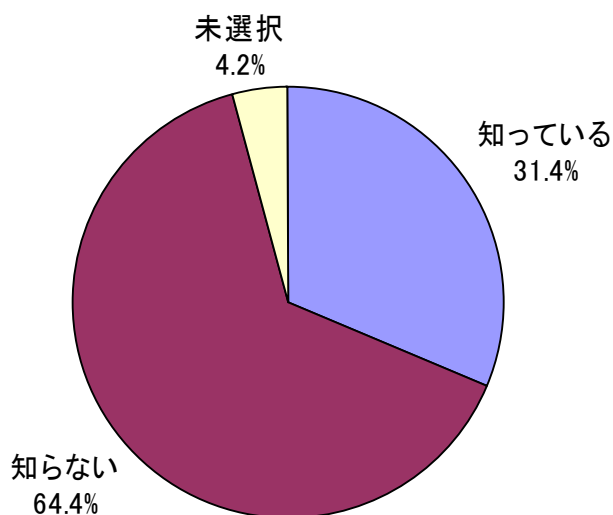
【回答者93人、未回答者3人】



【学習に関する希望】

日本語を学びたい人96人のうち、「自宅・職場に近い場所」が49人(51.0%)、「中級・上級の講座」が48人(50.0%)、「日本の文化も学べる講座」が36人(37.5%)、「受講料の安い講座」が25人(26.0%)となっている。

問12 大野城市国際交流協会が中央コミュニティセンターで行っている日本語教室があることを知っていますか？

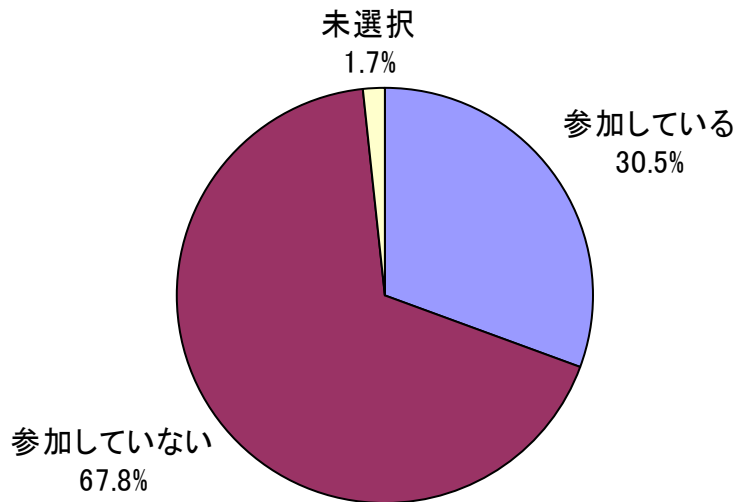


【大野城市国際交流協会主催の日本語教室の認知度】

「知っている」が31.4%、「知らない」が64.4%となっている。

第3節 地域参画

問13 地域の活動などに参加していますか？



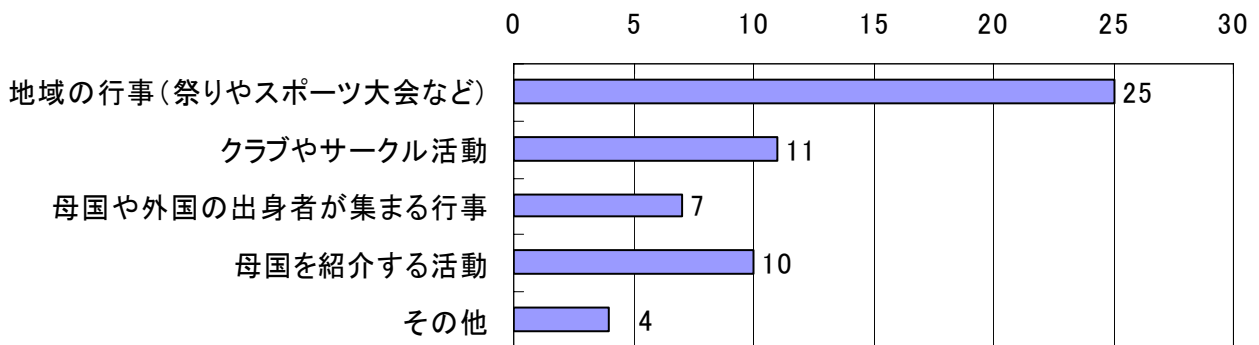
【地域活動】

「参加している」が30.5%、「参加していない」が67.8%となっている。

※問13で「参加している」と答えた方（36人）

問13-1 どのような活動に参加しましたか？（複数回答可）

【回答者35人、未回答者1人】

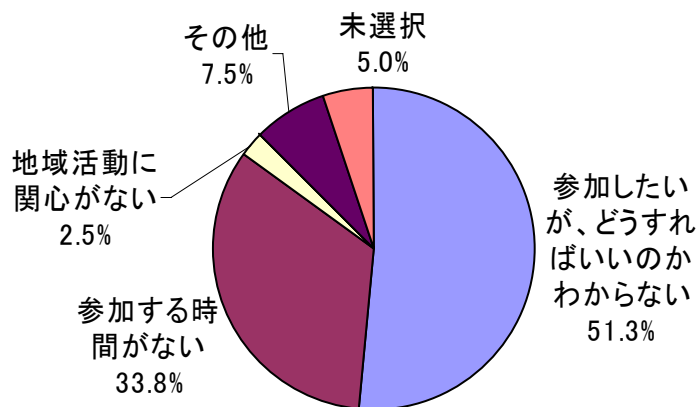


【参加している地域活動】

「祭りやスポーツ大会などの地域の行事」は25人と最も多くなっている。
また、「その他」では「消防団活動」「教会の活動」などがあげられた。

※問13で「参加していない」と答えた方(80人)

問13-2 地域の活動に参加されないのはなぜですか？



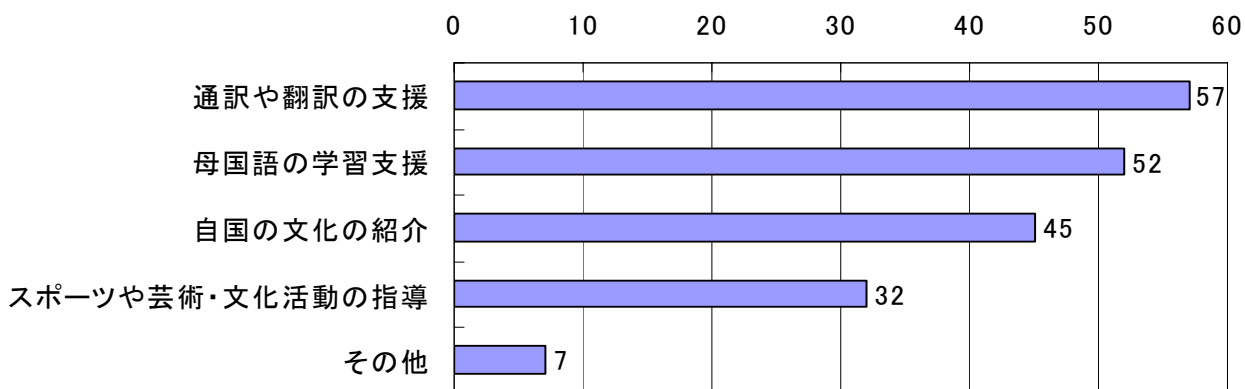
【地域活動に参加していない理由】

「参加したいが、どうすればいいのかわからない」が51.3%と最も多く、次いで「参加する時間がない」が33.8%、「地域活動に関心がない」が2.5%となっている。また、「その他」として「言葉が通じないことで他人に迷惑をかけたくない」「日本語が不得意で交流できない」「地域活動がいつあっているかを知らない」「大野城市に住んでまだ日が浅い」などがあげられた。なお、「日本人と交流したくない」は0%となっている。

問14 今後、自分の能力や語学力などを活かして協力してみたい活動はありますか？

(複数回答可)

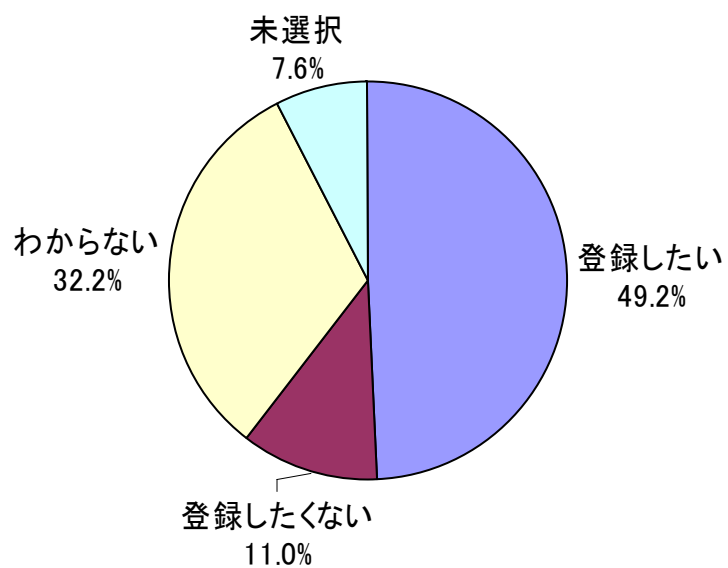
【回答者99人、未回答者19人】



【協力してみたい活動】

「通訳や翻訳の支援」が57人(48.3%)、「母国語の学習支援」が52人(44.1%)、「自国の文化の紹介」が45人(38.1%)、「スポーツや芸術・文化活動の指導」が32人(27.1%)となっている。また、その他として「音楽イベント活動」「ベジタリアンに関するイベント活動」があげられた。

問 15 通訳、翻訳、学校などで母国の紹介活動を行うボランティア登録制度があれば登録したいと思いますか？



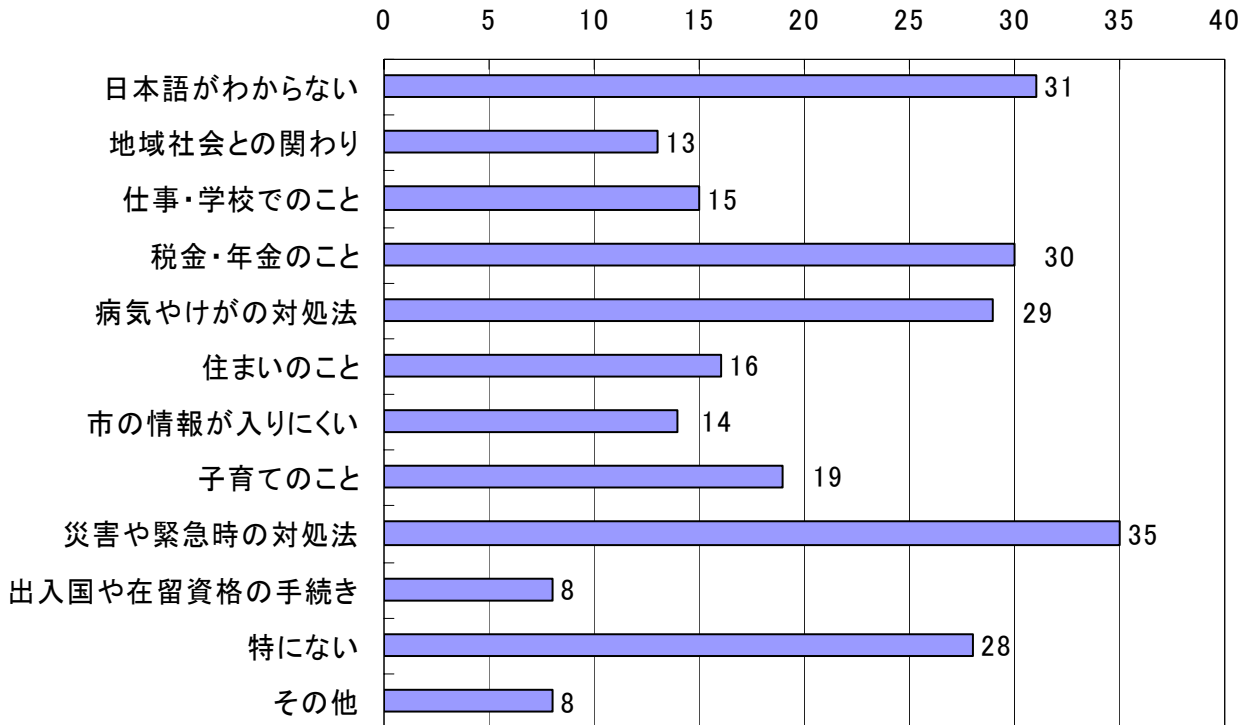
【母国の紹介などのボランティア登録制度】

「登録したい」が49.2%、「登録したくない」が11.0%、「わからない」が32.2%となっている。

第4節 日本での生活

問16 普段の生活で困っていることや心配なことはありますか？（複数回答可）

【回答者114人、未回答者4人】



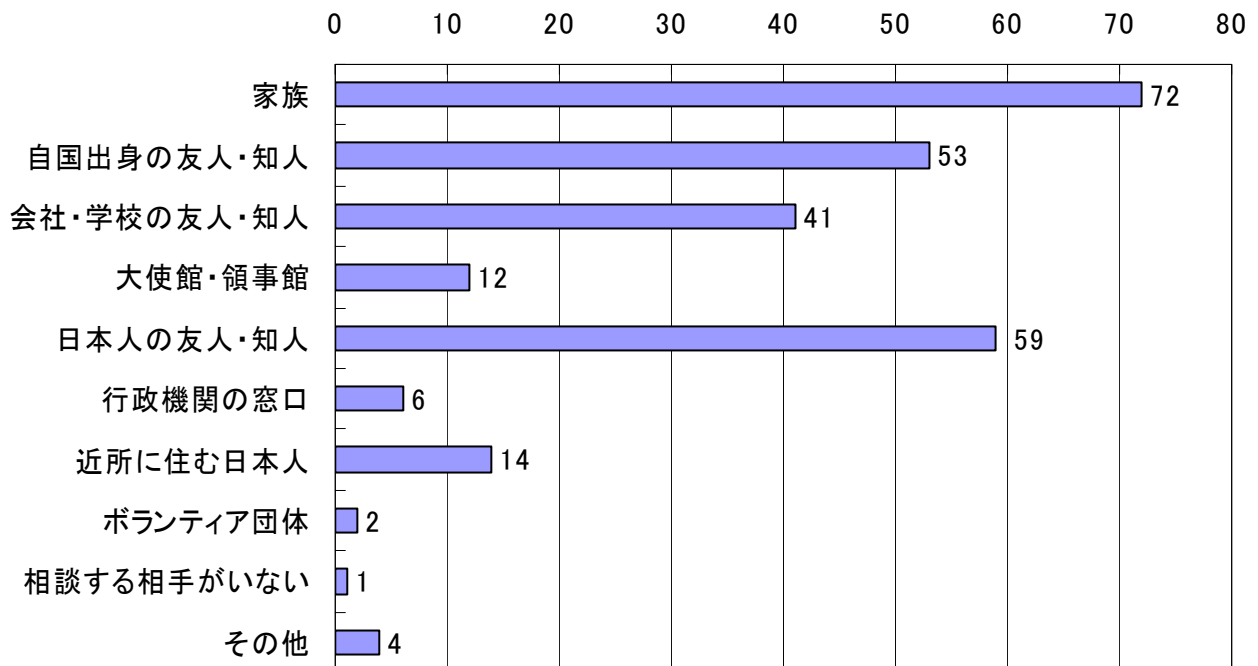
【生活で困っていること・心配なこと】

最も多いのが、「災害や緊急時の対処法」の35人（29.7%）、次いで「日本語がわからない」が31人（26.3%）、「税金・年金」が30人（25.4%）、「病気やけがの対処法」が29人（24.6%）の順となっている。「特にない」と答えた28人（23.7%）および「未回答」の4人を除く86人（72.9%）は、何か困っていることや心配なことがあることが分かる。

また、その他として「物価が高い」「努力しているが近所の人と交流ができない」「電話やインターネット回線などの手続き」などがあげられた。

問17 日本の生活で困ったり、心配なことがあったりした時に相談できる相手は誰ですか？（複数回答可）

【回答者 115 人、未回答者 3 人】



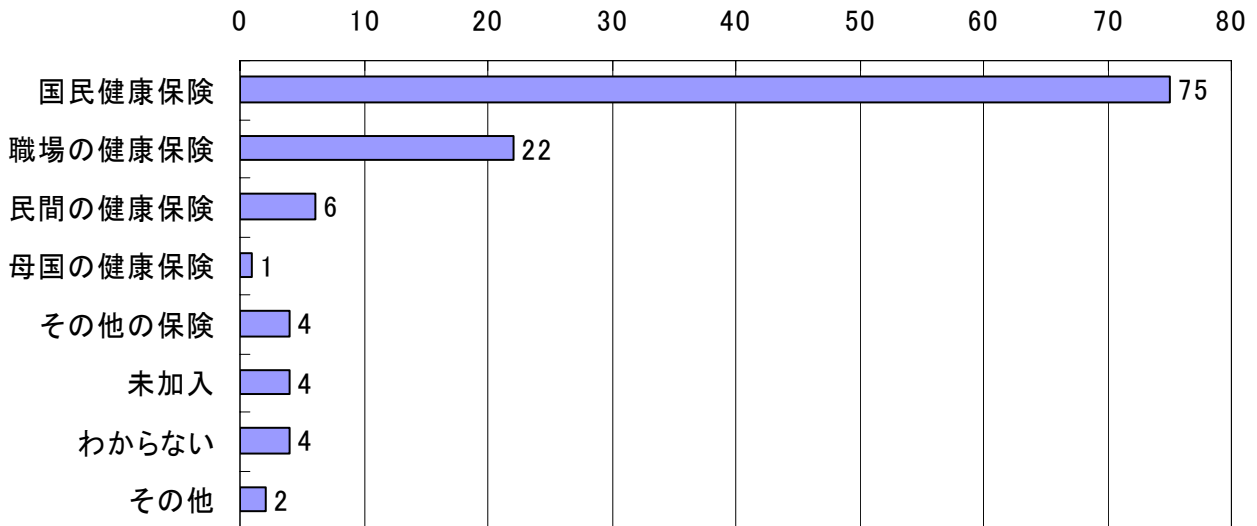
【相談相手】

「家族」が最も多く 72 人（61.0%）、次いで「日本人の友人・知人」が 59 人（50.0%）、「自国出身の友人・知人」が 53 人（44.9%）、「会社・学校の友人・知人」が 41 人（34.7%）の順となっている。「その他」としては「大学の留学生サポートセンター」や「相談相手がない時もある」があげられた。また、「相談する相手がない」と答えた人は 1 人（0.8%）となっている。

第5節 医療・福祉

問18 加入している健康保険は何ですか？

【回答者 115 人、未回答者 3 人】

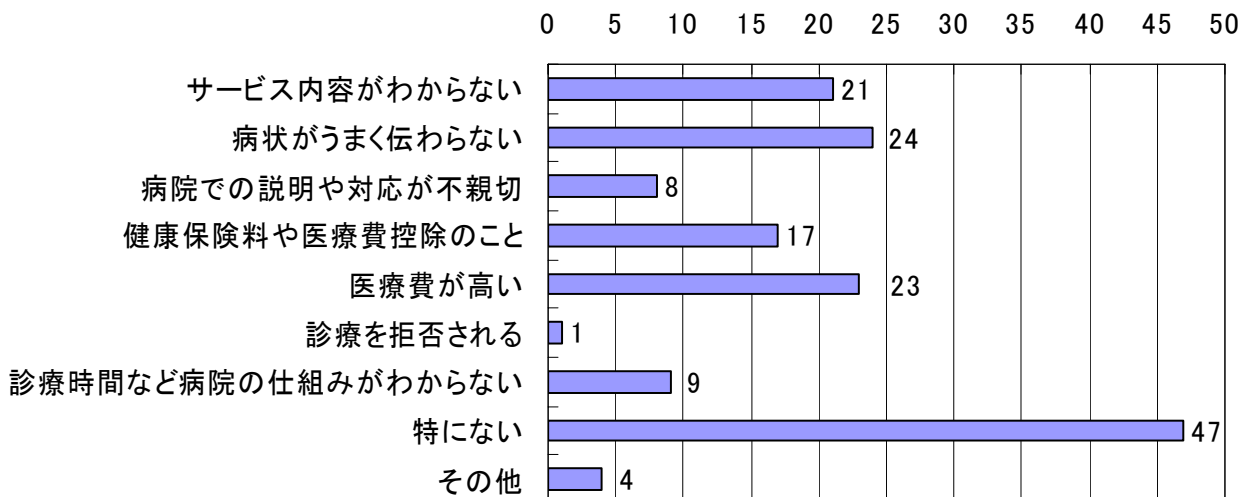


【健康保険の種類】

公的医療保険等の健康保険に加入している人は 108 人 (91.5%)、未加入の人は 4 人 (3.4%) となっている。

問19 医療サービスで困っていることや心配なことはありますか？（複数回答可）

【回答者 113 人、未回答者 5 人】

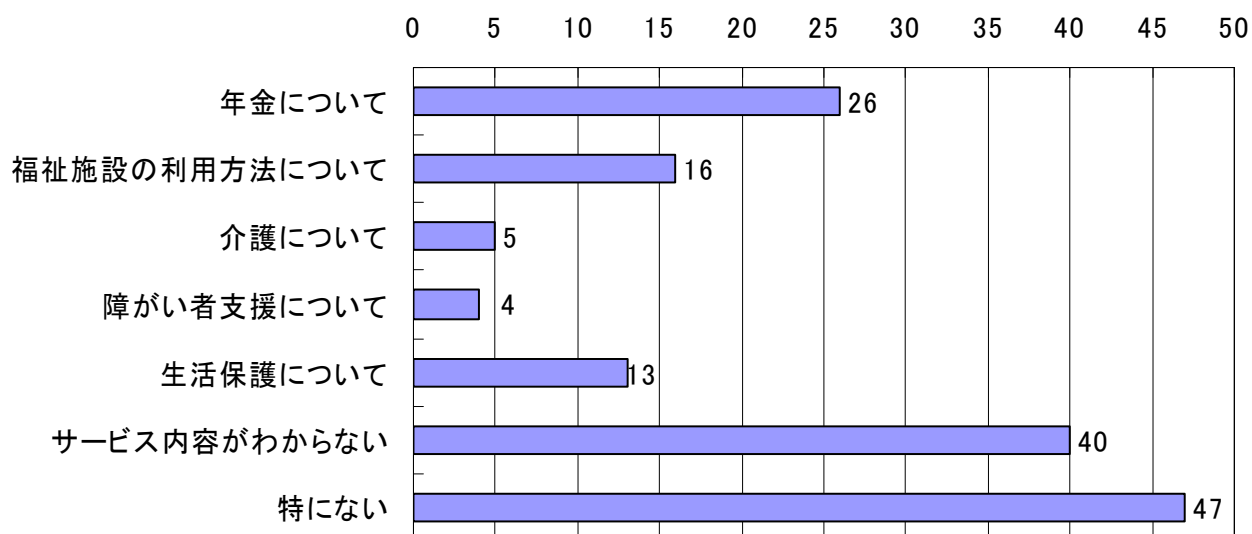


【医療サービスで困っていること・心配なこと】

「特に困ったことなどない」人は 47 人 (39.8%) いる一方、「病状がうまく伝わらない」「医療費が高い」「サービス内容がわからない」人がそれぞれ約 20%程度となっている。

問20 福祉サービスで困っていることや心配なことはありますか？（複数回答可）

【回答者 112 人、未回答者 6 人】



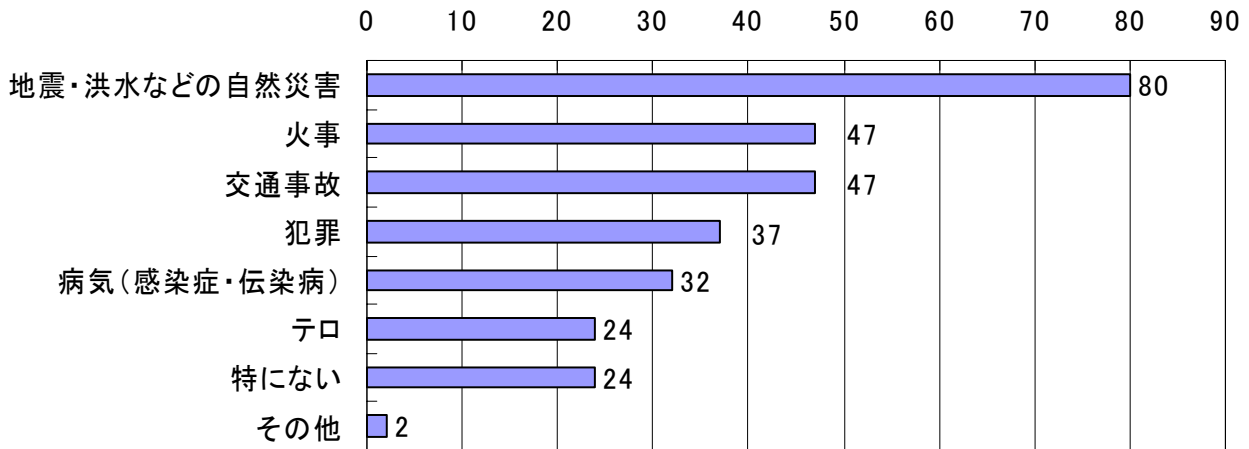
【福祉サービスで困っていること・心配なこと】

「特に困ったことなどない」が47人（39.8%）となっており、「未回答」の6人を除く65人（55.1%）の人は何かしらの理由により困っていることや心配なことがあることが分かる。

第6節 災害・緊急時など

問2 1 どのような災害などに不安を感じますか？（複数回答可）

【回答者 114 人、未回答者 4 人】

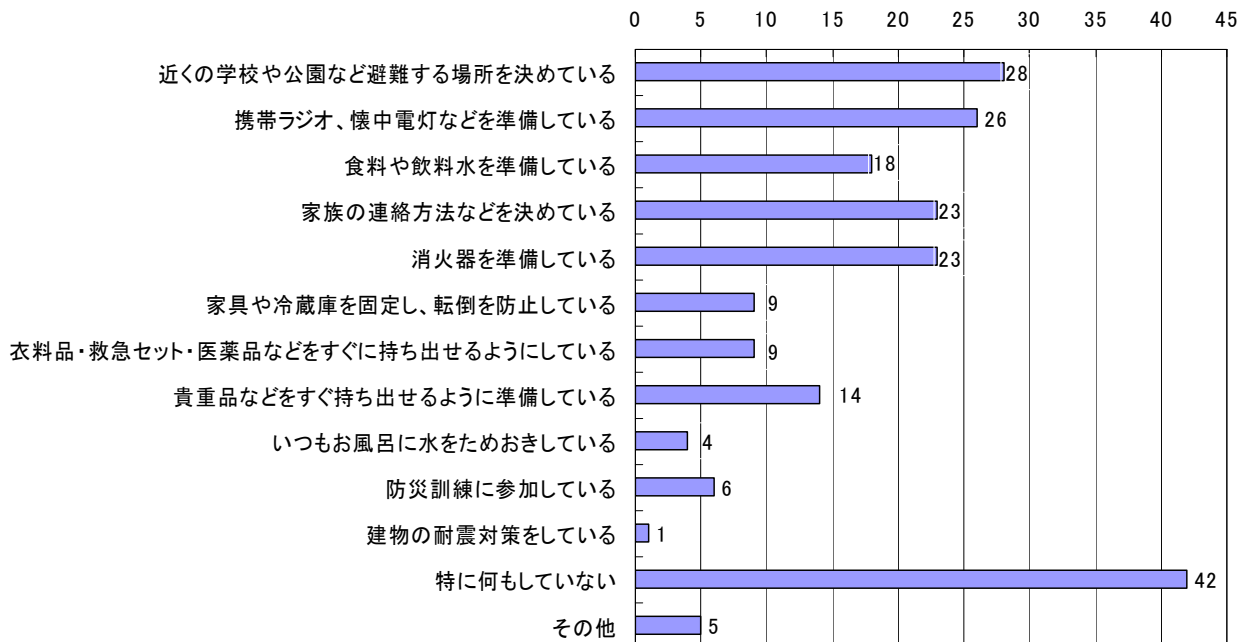


【不安に感じる災害】

「地震・洪水などの自然災害」が 80 人 (67.8%)、「火事」「交通事故」がそれぞれ 47 人 (39.8%) となっている。

問2 2 日頃からの災害への備えを行っていますか？（複数回答可）

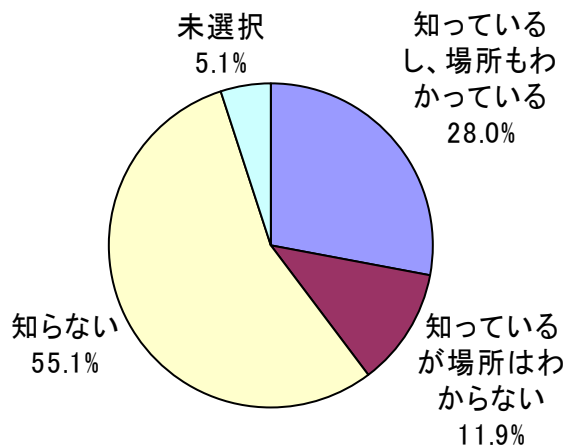
【回答者 112 人、未回答者 6 人】



【災害への備え】

42 人 (35.6%) の人が「特に何もしていない」と回答しており、何かしらの災害に対する備えを行っているとは回答した人（未回答者を除く）は、70 人で全体の 59.3%となっている。

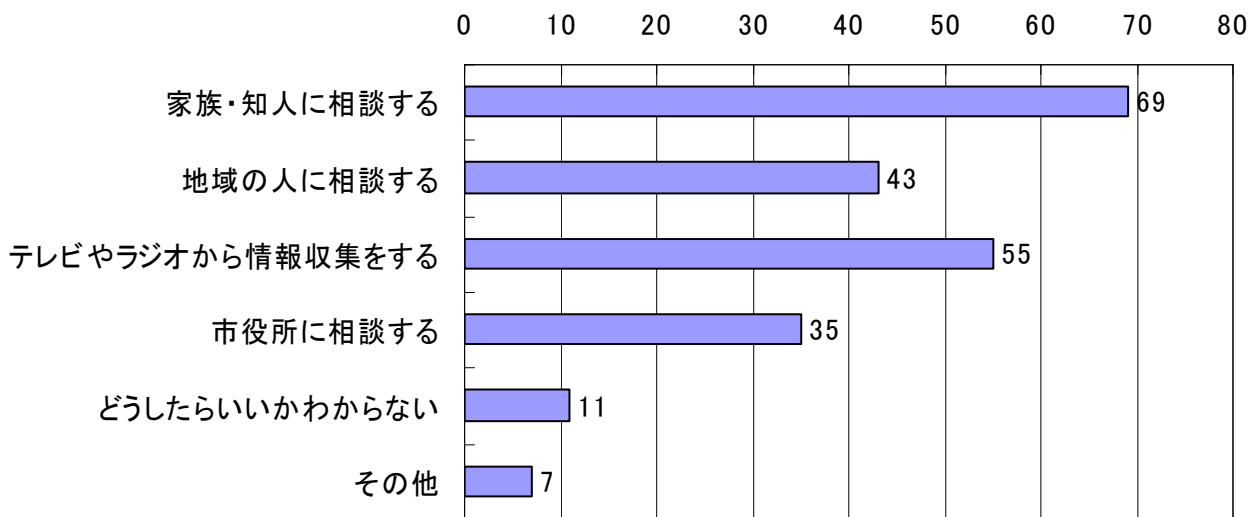
問 2 3 あなたの住まいの地域に緊急避難場所があるのは知っていますか？



【避難場所の認知度】
 避難場所について、「知っているし、場所もわかっている」が 28.0%、「知っているが場所はわからない」が 11.9%、「知らない」が 55.1%となっており、全体の 67.0%の人が避難場所がどこにあるか知らないことになる。

問 2 4 災害などがあつた場合、まずどうしますか？（複数回答可）

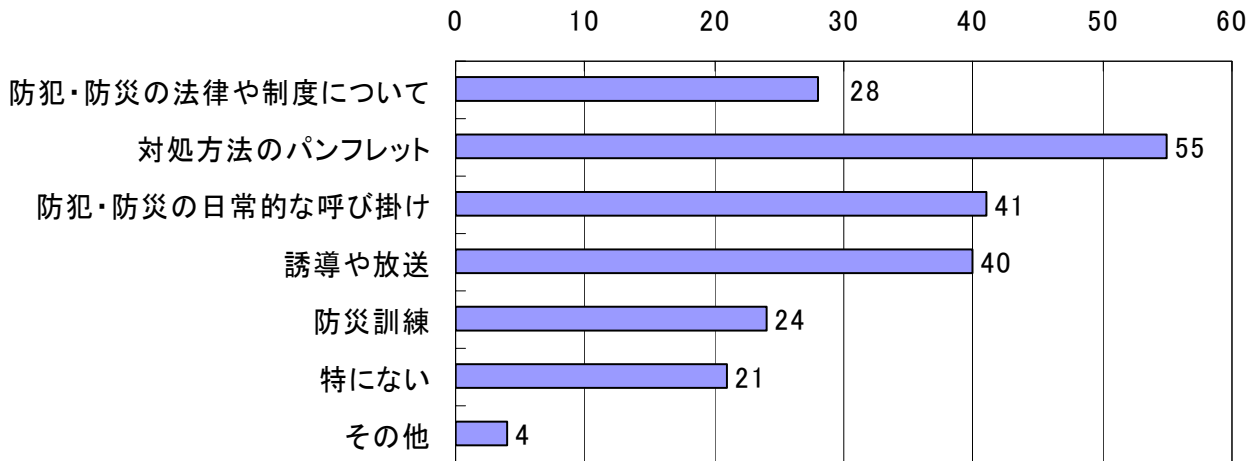
【回答者 113 人、未回答者 5 人】



【災害等起こった時の行動】
 「家族・知人に相談する」「地域の人に相談する」「テレビやラジオから情報収集をする」と回答した人が多い一方で、35人（29.7%）の人が「市役所に相談する」と回答している。また、11人（9.3%）の人が「どうしていいかわからない」と回答している。

問25 災害時などに外国語情報があれば良いと思うものはありますか？（複数回答可）

【回答者 108 人、未回答者 10 人】

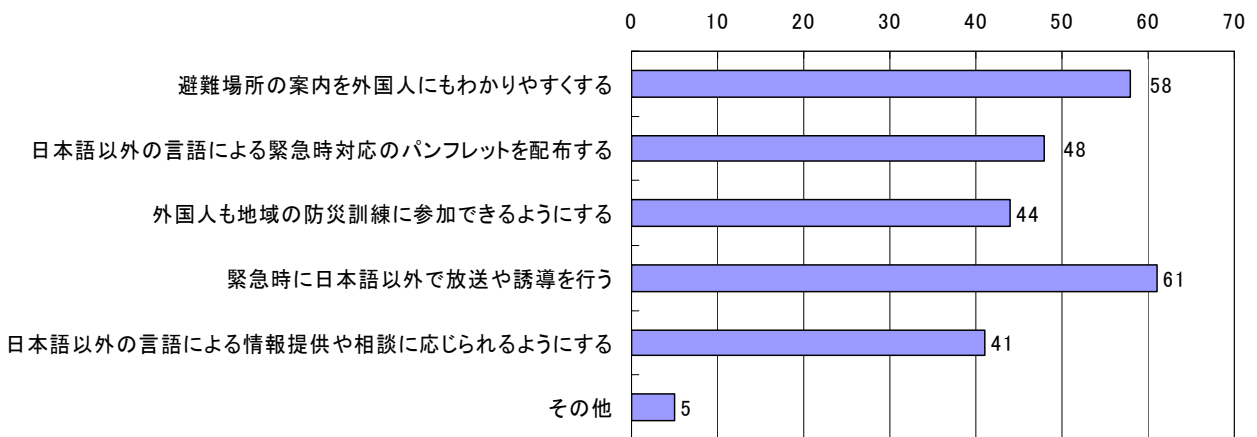


【あれば良い外国語情報】

「対処方法のパンフレット」が最も多く 55 人（46.6%）となっている。次いで「防犯・防災の日常的な呼び掛け」が 41 人（34.7%）、「誘導や放送」が 40 人（33.9%）の順となっている。また、外国語での避難場所の看板等の設置を求める声も「その他」としてあがっている。

問26 災害や緊急時などの対応策として、市に何を期待しますか？（複数回答可）

【回答者 108 人、未回答者 10 人】



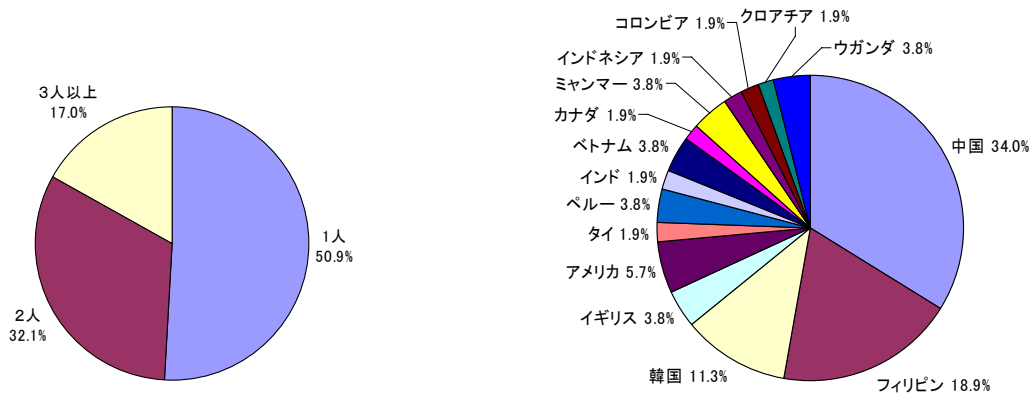
【災害等の対応策としての市への期待】

「緊急時に日本語以外で放送や誘導を行う」が 61 人（51.7%）、「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」が 58 人（49.2%）、日本語以外の言語による緊急時対応のパンフレットを配布する」が 48 人（40.7%）、「外国人も地域の防災訓練に参加できるようにする」が 44 人（37.3%）、「日本語以外の言語による情報提供や相談に応じられるようにする」が 41 人（34.7%）となっている。

第7節 子育て

※0歳～18歳のお子様がいいらっしゃる方（53人）

問27 あなたのお子様の人数を教えてください。



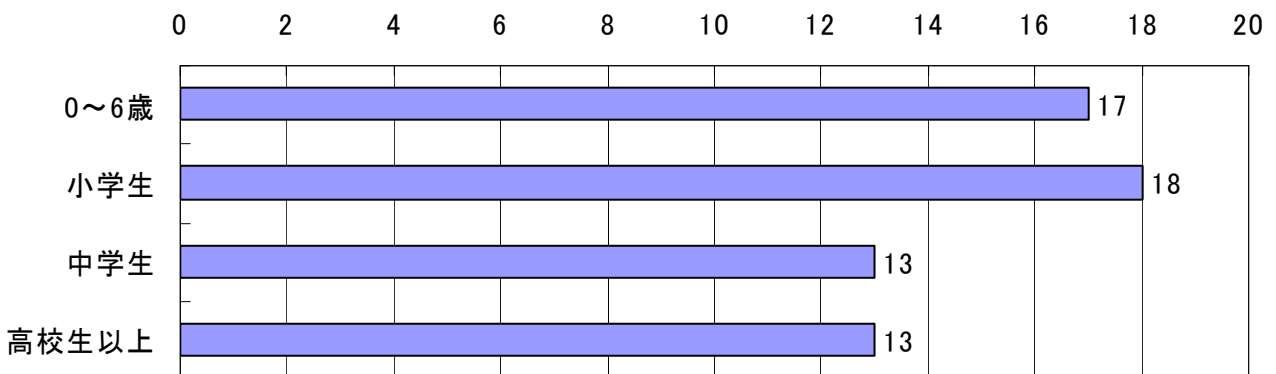
【子どもの人数】

子どもがいる人は、53人で全体の44.9%となっており、そのうち、子ども「1人」が27人（50.9%）、「2人」が17人（32.1%）、「3人以上」が9人（17.0%）となっている。

また、国籍別で見ると「中国」が最も多く18人（34.0%）、次いで「フィリピン」が10人（18.9%）、「韓国」が6人（11.3%）の順となっている。

問28 あなたのお子様の年齢を教えてください（複数回答可）

【回答者51人、未回答者2人】

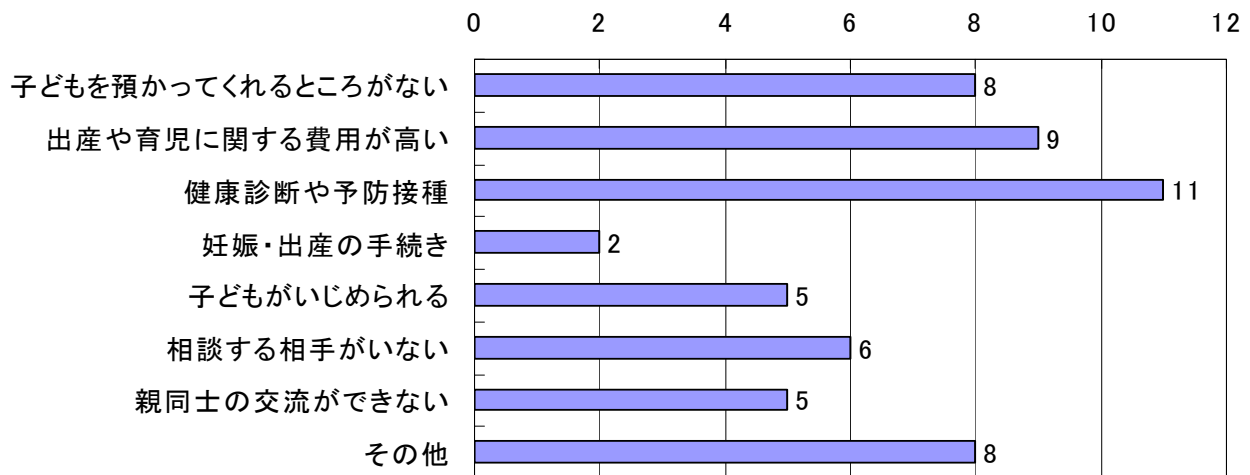


【子どもの年齢】

「小学生」の子どもを持つ人が最も多く18人、次いで「0～6歳」が17人、「中学生」と「高校生以上」がともに13人となっている。

問29 子育てで困っている、または今まで困ったことはありますか？（複数回答可）

【回答者 38 人、未回答者 15 人】

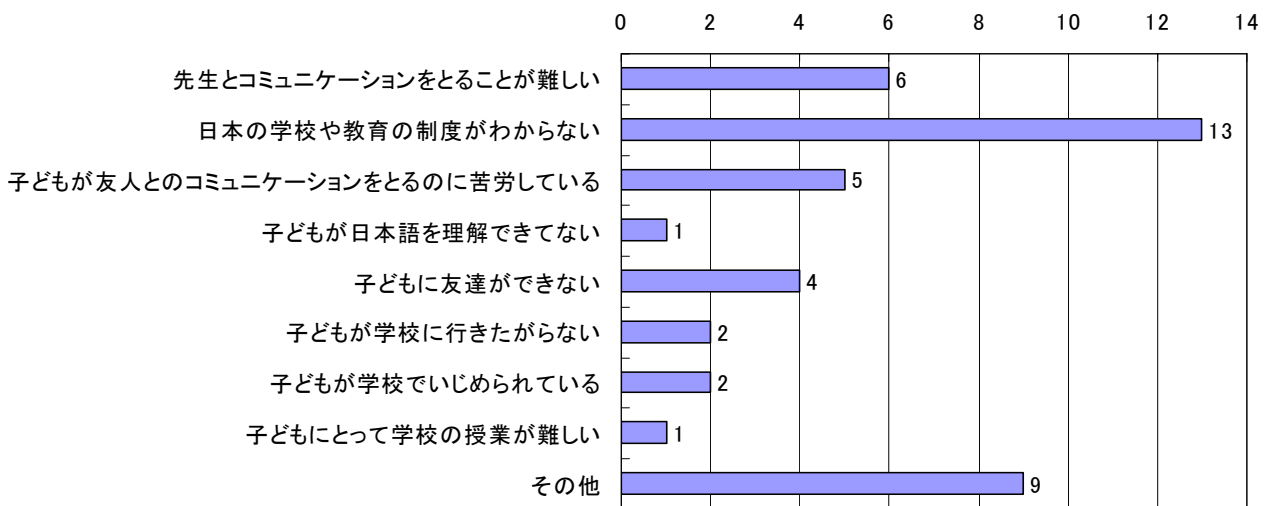


【子育てで困っていること・困ったことがあること】

「健康診断や予防接種」が 11 人（20.8%）で最も多く、次いで「出産や育児に関する費用が高い」が 9 人（17.0%）、「子どもを預かってくれるところがない」が 8 人（15.1%）の順となっている。また、「相談する相手がいない」「親同士の交流ができない」といったコミュニケーションに関することや「子どもがいじめられる」といった人権に関することも、子どもがいる人のうちの 10%前後の割合であげられている。

問30 学校（保育所・幼稚園を含む）関係で困っていることはありますか？（複数回答可）

【回答者 28 人、未回答者 25 人】

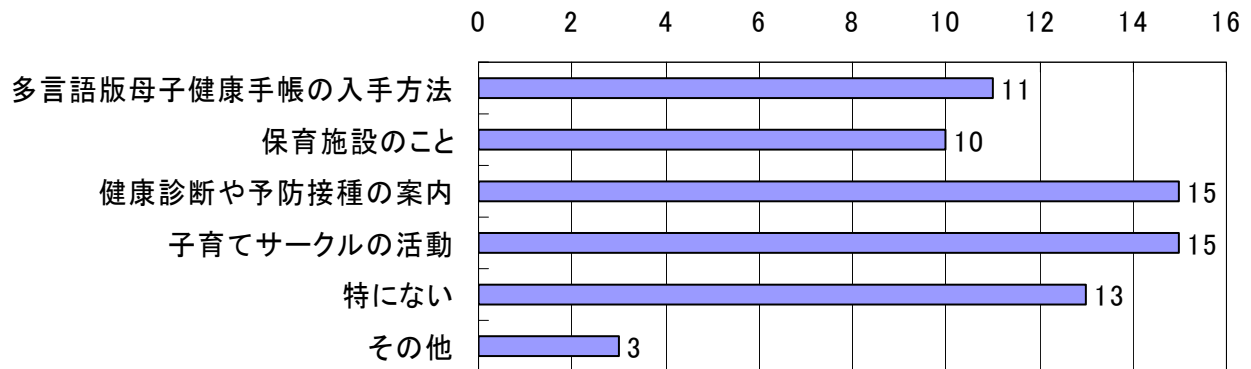


【学校関係で困っていること】

「日本の学校や教育の制度がわからない」が 13 人で最も多く、子どもがいる人の 24.5%を占めている。また、「先生とコミュニケーションをとることが難しい」「子どもが友人とのコミュニケーションをとるのに苦労している」「子どもに友達ができない」といった日本語によるコミュニケーションの問題に困っている人がある。

問3 1 子どもを育てる時に知りたい（知りたかった）ことはありますか？（複数回答可）

【回答者 44 人、未回答者 9 人】



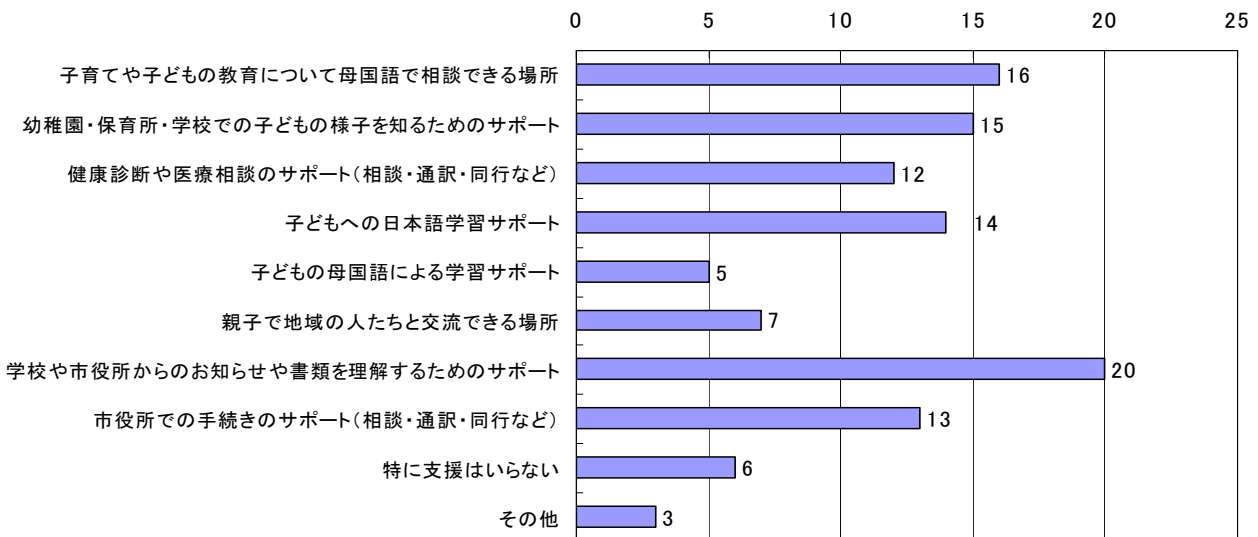
【子育て時に知りたい情報】

子どもがいる人のうち、15 人（28.3%）が「健康診断や予防接種の案内」「子育てサークルの活動」についての情報提供を求めている。また、「その他」として「日本の教育制度（学校に関する手続きや入試）」の情報を知りたいという意見もあげられた。

一方で、子どもがいる人のうち、13 人（24.5%）が「特に知りたいことはない」と回答している。

問3 2 子育てや教育についてあったらよいと思うものは何ですか。（複数回答可）

【回答者 47 人、未回答者 6 人】



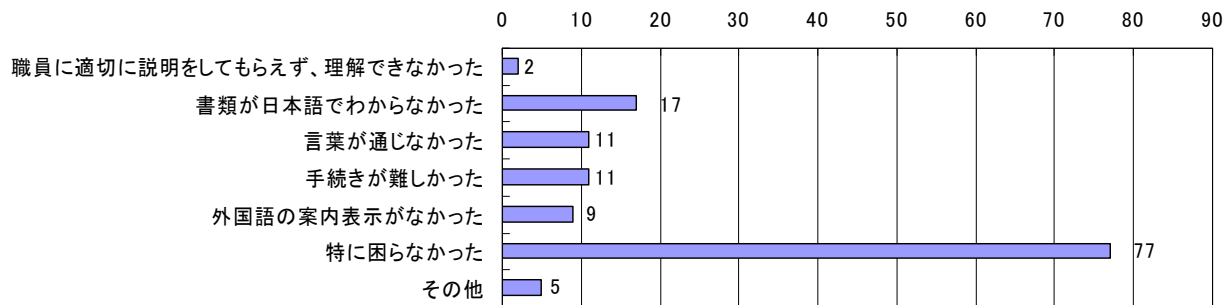
【子育てや教育においてあれば良いと思うもの】

子どもがいる人のうち、20 人（37.7%）が「学校や市役所からのお知らせや書類を理解するためのサポート」と答えている。また、「子育てや子どもの教育について母国語で相談できる場所」が 16 人（30.2%）、「幼稚園・保育所・学校での子どもの様子を知るためのサポート」が 15 人（28.3%）、「子どもへの日本語学習サポート」が 14 人（26.4%）となっている。「特に支援はいらない」と答えた人は 6 人（11.3%）となっており、残りの 77.4%の人（未回答者 6 人を除く）は何かしらのサポートを求めていることが分かる。

第 8 節 大野城市役所のサポート

問 3 3 市役所の窓口で困ったことはありますか？（複数回答可）

【回答者 112 人、未回答者 6 人】

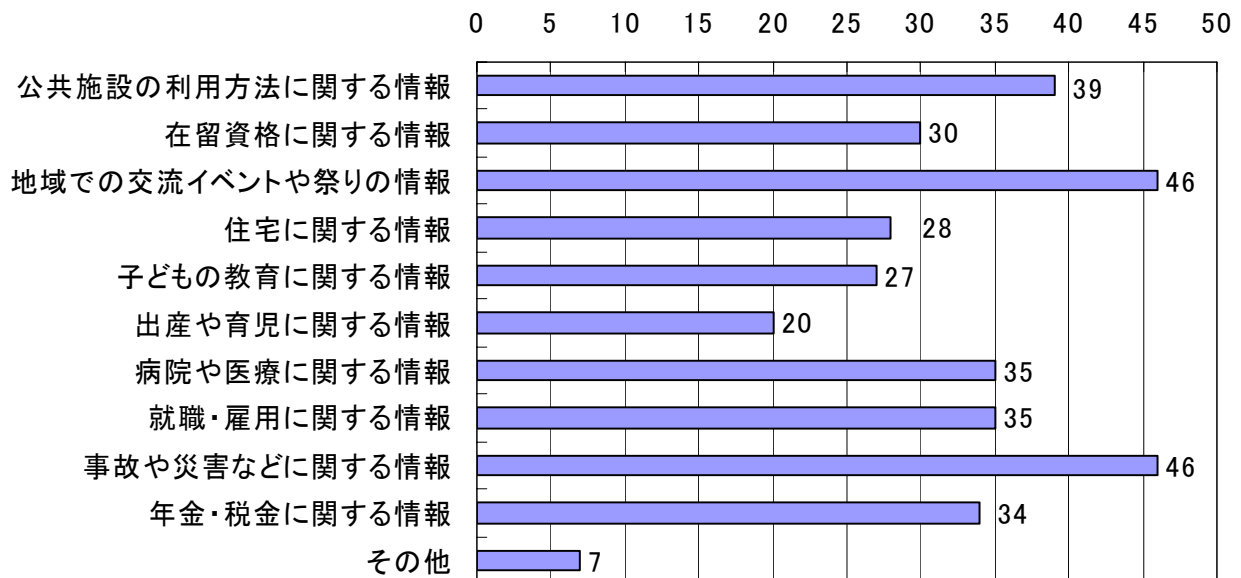


【市役所窓口で困ったこと】

77 人（65.3%）の人が市役所窓口で「特に困らなかった」と答えている。これは、日本語ができる人が一緒に手続きに来ていることが多いことや市役所職員による通訳を行っていることが起因していると考えられる。その反面、「書類が日本語でわからなかった」「ことばが通じなかった」「職員に適切に説明をしてもらえず、理解できなかった」など市役所窓口で困った経験がある人も少数ではあるが、いることが分かる。

問 3 4 市役所からどのような情報提供を必要としていますか？（複数回答可）

【回答者 105 人、未回答者 13 人】

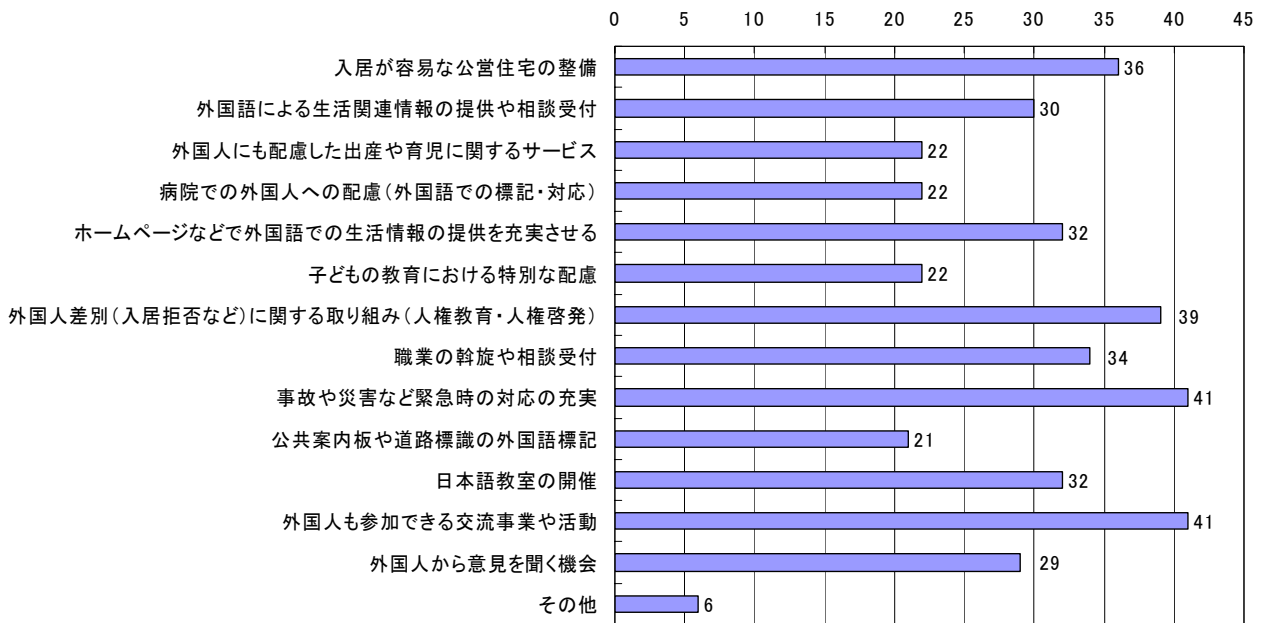


【市役所からの情報提供】

「地域での交流イベントや祭りの情報」と「事故や災害などに関する情報」の 2 項目が最も多く、それぞれ 46 人（39.0%）となっており、地域への参加の意思や災害等への不安感があることが分かる。また、全体的にみて市役所からの情報が在住外国人まで届いていないことが分かる。

問35 市が行う外国人向けのサービスで充実してほしいものは何ですか？（複数回答可）

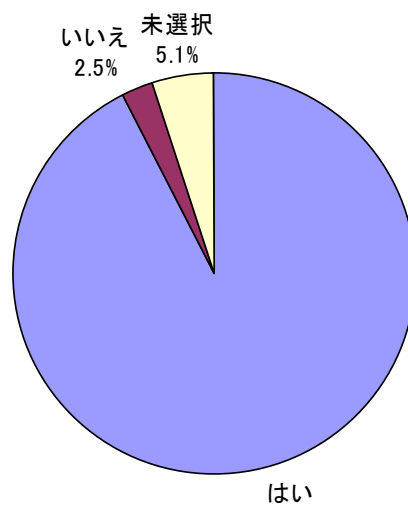
【回答者 109 人、未回答者 9 人】



【大野城市に対する外国人向けのサービスの充実を求めるもの】

「事故や災害など緊急時の対応の充実」と「外国人も参加できる交流事業や活動」の2項目がそれぞれ41人（34.7%）、次いで「外国人差別（入居拒否など）に関する取り組み（人権教育・人権啓発）」が39人（33.1%）となっている。また、「その他」として「広報紙に外国人用のページとして英語の記事を掲載してほしい」「市職員全員が思いやりをもって笑顔で市民に接してほしい」といった意見もあった。

問36 大野城市は外国人にとって住みやすいまちだと思いますか？



【大野城市の住みやすさ】

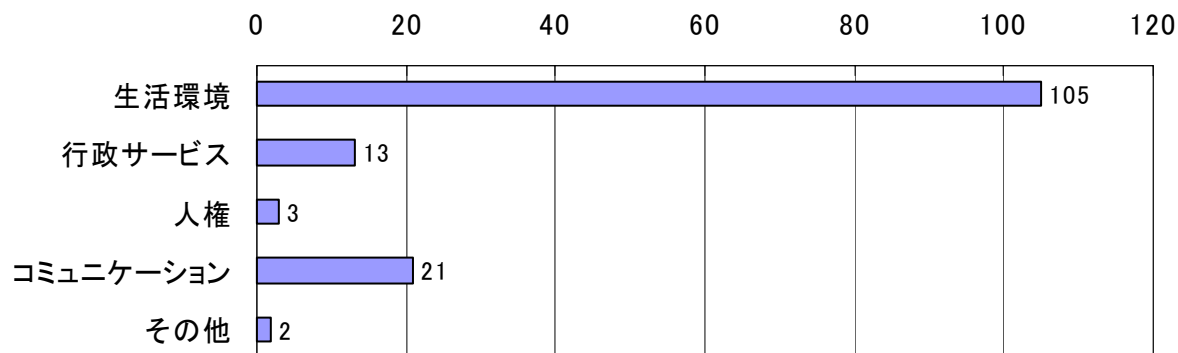
大野城市は「住みやすいまち」と答えた人は92.4%となっている。

※問36で「はい」と答えた方（109人）

問36-1 住みやすいと思う理由を教えてください。

【回答者 81人、未回答者 28人】

《住みやすいと思う理由の分野》



《住みやすいと思う主な理由》

分野	主な理由	件数
生活環境	暮らしやすいから	13
	さまざまなサービスが良いから	4
	環境が良いから	12
	交通やショッピングなど便利が良いから	29
	とても良いまちだから	2
	物価が安い	5
	静かだから	13
	まちがきれいだから	2
	日本文化を教えてくれる場があるから	1
	市が大きくなり、人口もそれほど多くないから	2
	安全なまちだから	9
	大野城市の生活になれたから	2
	勤務地・学校に近いから	4
	大野城市が好きだから	1
	暮らしにくいと思わないから	2
	気候が良い	1
	市民にモラルがあるから	1
	市街地に近いから	1
市の雰囲気が良いから	1	

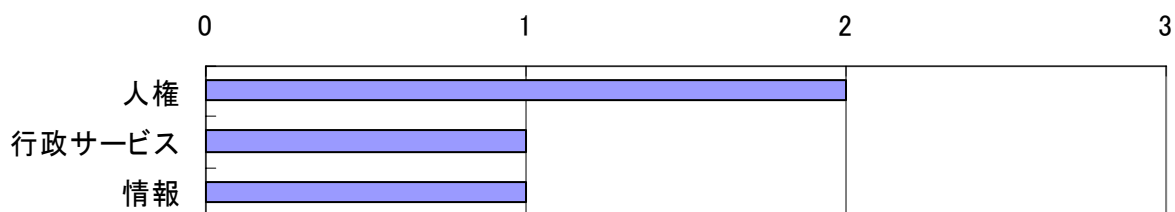
分野	主な理由	件数
行政サービス	市から定期的に情報を得ることができるから	3
	行政が外国人の意見を聞く機会を設けているから	1
	市職員で英語ができる職員がいるから	1
	市職員が親切だから	4
	大野城市職員が迅速な対応をしてくれるから	2
	外国語のサインがあるから	1
	日本人と同じ行政サービスを受けられるから	1
人権	差別がないから	2
	人権教育・啓発の取り組みを行っているから	1
コミュニケーション	コミュニケーションに問題がないから	1
	外国人の交流の場があり、悩みを相談できるから	1
	市民が親切だから	18
	市民が英語でコミュニケーションを少しでも取れるから	1
その他	大野城市以外のところを知らないから	2

※問36で「いいえ」と答えた方（3人）

問36-2 住みにくいと思う理由を教えてください。

【回答者3人、未回答者0人】

《住みにくいと思う理由の分野》

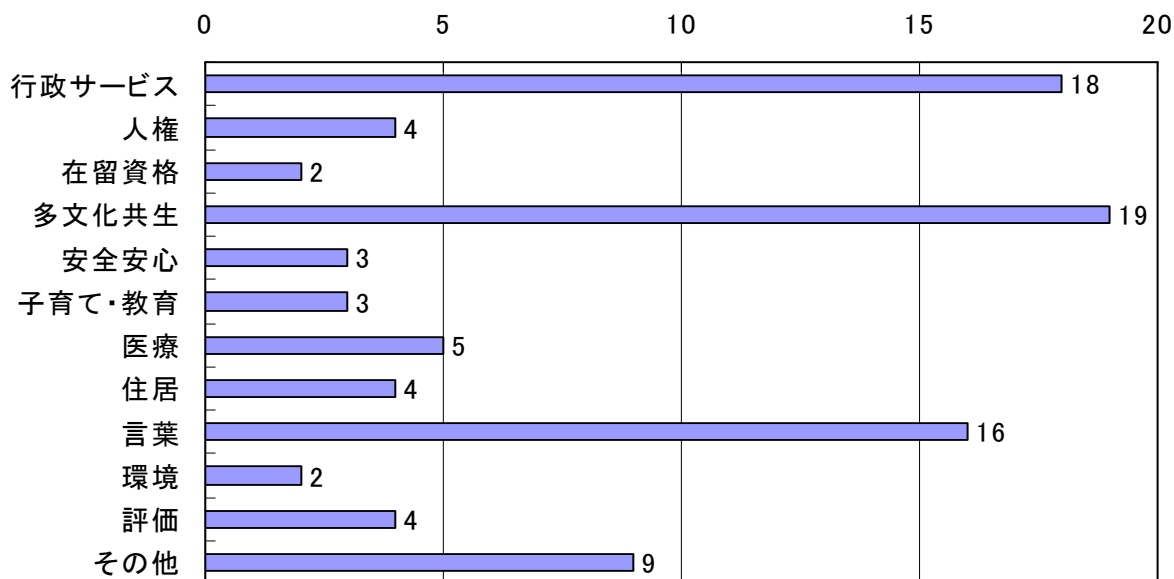


《住みにくいと思う主な理由》

分野	主な理由	件数
人権	差別があるから	2
行政サービス	ゴミの出し方が分からないから	1
情報	どこの病院に行ったら良いか分からないから	1

問37 外国人が住みやすいまちにするために、大野城市役所に期待することはありますか？

《大野城市役所に期待する分野》

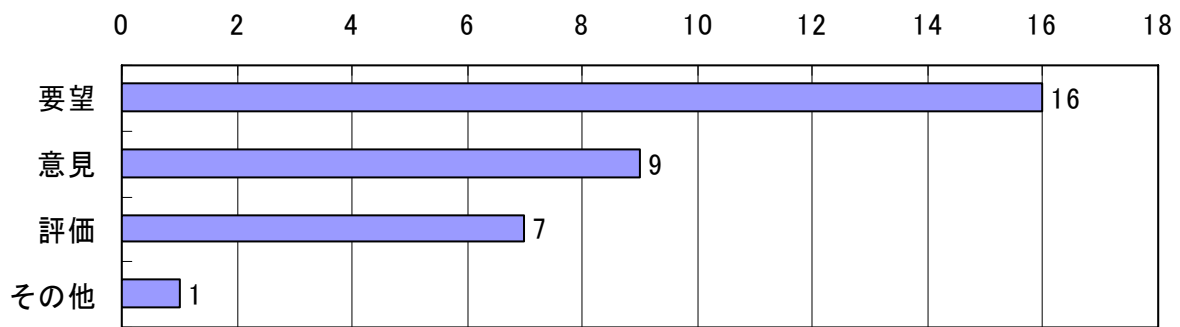


《大野城市役所に期待すること》

分野	主な理由	件数
行政サービス	外国語による情報提供（法律、教育、地域、住宅、病院、保育施設など）	14
	外国語による案内やサポート	2
	外国人相談窓口の設置	1
	市営住宅入居の優先順位に新婚夫婦を追加してほしい	1
人権	外国人入居拒否など外国人差別事象に対する取り組み	2
	人権教育・啓発への取り組みの充実	1
	外国人就職問題にもっと関心を持ってほしい	1
在留資格	容易に永住権を取得できるようにしてほしい	2
多文化共生	日本人と外国人が交流できる場や外国人が参画できる場の提供	11
	日本の文化や習慣を学べる場の提供	2
	外国人と日本人の両者にとっての良いまちづくりの推進	1
	外国人同士が集う場の提供	1
	多文化共生意識の向上	1
	国際・文化フェスティバル等の開催	1
	地域住民の多国籍市民に対する理解の向上のための講座の開催（国際理解・国際協力等）	1
ベジタリアンへの配慮（学校・レストラン等）	1	
安全安心	外国人に対するハザードマップ等の配布	1
	緊急時における対応の充実	1
	外国人に対する防災訓練の案内の充実	1

分野	主な理由	件数
子育て・教育	保育施設の充実および外国人利用者への配慮	1
	教育費を安くしてほしい	1
	外国人の子どもに対する教育の充実	1
医療	未就学児の医療費の完全無料化	2
	夜間受付してもらえる病院が近くにあると良い	1
	外国語対応可能な病院の設置	1
	病院の問診票等の書類の多言語化	1
住居	外国人の入居に関する支援・サポート	3
	市営住宅の増築	1
言葉	書類や資料、メニュー等の翻訳サービス	4
	避難所など公共施設の外国語併記されたサインの設置	3
	日本語教室開催数の増加、開催場所の増設	3
	日本語教室の開催	2
	外国語を話せる人材の育成や雇用	2
	現存の日本語教室の質の改善	1
	金融機関等各手続きの際の通訳サービス	1
環境	環境保全	2
評価	日本の法律は良く分からないが、現在の生活には満足している	1
	大野城市は多くのサービスを受けることができ、生活環境もとても良く、子育てをするのに最適な場所である	1
	大野城市は1番良いまちだと思う	1
	住みやすいまちではないが、他市に比べると良いまちである	1

問38 ご意見・ご要望などありましたら、自由にお書きください。



【 要 望 】

分野	主な理由	件数
人 権	外国人就職問題についてもっと関心を持ってほしい。外国人というだけで面接さえ受けられないことが多い。	1
言 葉	国際交流協会が開催している日本語講座は、先生が授業の準備を十分していなく、何週も続けて同じ内容の授業を行い、また簡単な内容のものしか教えてもらえないため、在住外国人にとって満足のいく内容ではなく、1年間授業を受けても日本語の習得にはつながらないと思うため改善をお願いしたい。	2
	自宅近くで開催されている外国人向けの日本語教室がどこで行われているのか知りたい。	1
	外国人にとって重要なことは英語表記していれば、日本のルールなどを理解することができる。また、西鉄電車等の停車駅のお知らせなど、公共交通機関のアナウンスも英語だけでも流してほしい。	1
情報提供	永住権手続き方法や年金制度、健康保険制度、税制度など外国人が理解できるような情報を発信してほしい。	1
安全安心	日常から災害時の対応方法についての情報を発信し、災害が起ころしても日本国籍住民と同じように避難できるよう迅速な情報提供を行ってほしい。	2
環 境	公園をもっと増やしてほしい。	1
生 活	外国語の雑誌等を図書館に置いてほしい。	1
	年齢を問わずもっと就職しやすい大野城市にしてほしい。	1
子育て・教育	子どもが多いと多額の教育費がかかるため、児童手当支給額を増額してもらえると助かる。	1
意識調査	スペイン語に訳された調査書がなかったため回答が困難だった。	1
多文化共生	日本人と外国人が相互理解できるように、相互交流の機会をもっと増やしてほしい。	2
	茶道や着物など日本文化の講座があると良い。	1

【意見】

分野	主な理由	件数
人権	日本人が政治的観点から外国人を差別せず、日本人と外国人が仲良くしていけたらいいと思う。	1
	外国人に対する恐怖感を持たないよう小さい頃からの教育が必要である。	1
	日本人の子どもはもっと他文化について理解すべきである。そうすれば、日本人じゃない子供に対するいじめが少なくなると思う	1
行政サービス	行政職員の英語のレベルが低すぎる。(英語を話せる職員がいない。)	1
環境	庭などにある不用な草木をリサイクルすれば良いと思う。	1
生活	他市に比べて水道料金や保育料などが高い。	1
	大野城市は親切な人ときれいな環境で囲まれていると思う。	1
	住民がとても親切であるため、言葉の壁はあっても生活にはそれほど困っていない。	1
意識調査	日本語も英語も分からないため、このような調査をされると回答するのが大変である。	1

【評価】

分野	主な理由	件数
行政サービス	市役所の総合窓口はとても親切でした	1
	今後も大野城市にお世話になることが多いと思う。大野城市や市職員に助けをもらい、とても感謝している。	1
生活	大野城市が大好き。	1
	既に満足している。	1
意識調査	外国人の意見を尊重するための調査をしていただき感謝する。	2
	外国人意識調査は外国籍市民との関係を良くすると思う。日本全国でこのような調査を行うべきである。	1

【その他】

分野	主な理由	件数
その他	外国人として日本の地域社会に溶け込むには主体性が必要であるため、特に意見や要望はない。	1

第3章 今後の課題

I 言語について

○在住外国人の約40%が日本語の読み書きができないことから、資料や申請書等を日本語のみならず多言語に翻訳したものを準備する必要がある。

○日本語以外で日常会話ができる主な言語が、英語、中国語、韓国語となっていることから、資料や申請書等を多言語化する際、最低この三ヶ国語に訳したものを準備する必要がある。

○日本語の学習に意欲を示している人が81.4%となっており、そのうちの約半数が「自宅・職場に近い場所」で開催される講座や「中級・上級の講座」を希望している。しかし、「大野城市国際交流協会が中央コミュニティセンターで行っている日本語教室があることを知っていますか？」という問いに対して、「知らない」と答えた人が全体の64.4%もいることから、日本語教室の周知方法について見直す必要がある。また、自由記述欄において、大野城市国際交流協会の日本語講座の内容の充実を求める要望があげられており、「中級・上級の講座」を希望する人が多いことや上級講座を行っていない現状などを踏まえ、大野城市国際交流協会と協議していく必要がある。

II 地域参画について

○地域活動に参加していない人が67.8%となっており、その理由として「参加したいが、どうすればいいのかわからない」と答えた人が51.3%に及んでいることから、在住外国人に対する情報発信のあり方などについて再度見直す必要がある。

○協力してみたい活動として「通訳や翻訳の支援」「母国語の学習支援」「自国の文化の紹介」が多くあげられており、49.2%の人がそのような活動を行うボランティア登録制度があれば登録したいと答えているため、市民力を活かした国際化の推進という観点からも制度の構築について検討する必要がある。

III 日本での生活について

○普段の生活で困っていることや心配なことが「特にない」と答えた人および「未回答」の人以外の72.9%の人は、何か困っていることや心配なことがあることが分かるため、在住外国人支援のあり方について再度考え直す必要がある。

IV 医療・福祉について

○医療サービスや福祉サービスに関する問いに対して、「特に困ったことなどない」と答えた人は39.8%となっている反面、「医療サービスの内容が分からない」と答えた人が17.8%、「福祉サービスの内容が分からない」と答えた人が33.9%となっていることから、日本の制度の周知方法について情報発信のあり方を見直す必要がある。

V 災害・緊急時などについて

○地震や洪水などの自然災害に不安を抱いている人が 67.8%いるにも関わらず、それらの災害に対する備えを何も行っていない人が 35.6%、緊急避難場所がどこにあるのか分からない人が 67.0%にも及ぶ。また、災害や緊急時などの対応策として、多言語に訳されたパンフレットなどによる避難場所や対処方法の周知を市に期待するという意見が多くあがっているため、在住外国人が災害・緊急時に困惑しないような対策を講じる必要がある。

○外国人も地域の防災訓練に参加できるようにしてもらいたいという意見が多くあがっていることから、在住外国人に対する防災訓練への参加促進や在住外国人も防災訓練に参加できるような環境づくりが必要である。また、緊急時に日本語以外での放送や誘導を行うことを期待している人が半数以上となっていることから、多言語での放送・誘導を行うことを検討する必要がある。

VI 子育てについて

○健康診断や予防接種の案内、子育てサークルの活動に関する情報を求めている人が多く見られることから、多言語による情報発信などにより確実に在住外国人に情報が届くような対策が必要である。

○日本の教育制度が分からない人が多く、学校や市役所からの書類などを理解するためのサポートを望む人も多いことから、それらの対応策について考える必要がある。

○子育てや教育に関して、母国語で相談できる場所を望む人も多いことから、近隣市町や大野城市国際交流協会、NPO 団体等と連携して対策を講じる必要がある。

VII 大野城市役所のサポートについて

○「市役所窓口で特に困らなかった」と答えた人は 65.3%となっているが、日本語ができる引率者と来庁しているケースが多いためであると考えられる。一方で「書類が日本語のためわからなかった」と答えた人が 14.4%、「言葉が通じなかった」「手続きが難しかった」がそれぞれ 9.3%ずつとなっており、在住外国人の立場に立った窓口サービスの充実を図る必要がある。また、行政職員の外国語能力が低すぎるという意見も出ており、国際化に対応した人材育成が求められている。

○地域での交流イベントや祭り、事故、災害、公共施設の利用方法など、在住外国人は多言語による多くの情報発信を求めていることから、そのニーズに即した行政サービスを考えていく必要がある。

○入居拒否などの外国人差別に関する人権教育や人権啓発の充実を求める人が 33.1%となっていることから、人権教育・人権啓発事業を今後も継続して行っていく必要がある。

大野城市外国籍市民意識調査報告書

平成24年9月

発行：大野城市教育委員会 文化学習課
〒816-8510
大野城市曙町2丁目2番1号
TEL 092-580-1812
FAX 092-501-2270